

平成 2 5 年度

男女共同参画に関する市民意識調査

結果報告書（概要版）

平成 2 6 年 3 月

市民意識調査の概要

調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識の変化や意向について把握し、「第2次きたひろしま男女共同参画プラン」の見直しなど、今後、市が取り組むべき施策の参考資料として活用します。

調査の方法と回収結果

- (1) 調査対象：20歳以上の市民1,000人(無作為抽出)
- (2) 調査期間：平成25年6月7日(金)～平成25年6月28日(金)
- (3) 調査方法：郵送による
- (4) 回答結果：有効回収数(率) 392人 39.2%
- (5) 回収状況表

		発送数	回収数	回収率
合計数		1,000	392	39.2%
性別	男性	492	185	37.6%
	女性	508	198	39.0%
	無回答	-	9	-
年齢別	20歳代	116	25	21.6%
	30歳代	120	41	34.2%
	40歳代	137	43	31.4%
	50歳代	185	67	36.2%
	60歳代	236	116	49.2%
	70歳代	129	68	52.7%
	80歳以上	77	28	36.4%
	無回答	-	4	-
地区別	東部地区	281	107	38.1%
	西部地区	55	20	36.4%
	大曲地区	290	104	35.9%
	西の里地区	109	40	36.7%
	北広島団地地区	265	117	44.2%
	無回答	-	4	-

報告書の見方

- (1) 回答率(各回答の百分率)は、回答総数を基数として算出し、小数第2位を四捨五入しました。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合(99.9あるいは100.1)があります。
- (2) 複数回答(「2つまで」「3つまで」「いくつでも」など)を認めた質問では、回答者数を基数としているため、比率の合計が100%を超えることがあります。

- (3) 前回調査や国(内閣府)・北海道の調査に同様の設問がある場合、できるだけ他調査結果との比較を行いました。報告書の中でこれらの表記は以下のとおりとします。

【今回調査】...本調査(平成25年度)

【前回調査】...「男女平等参画に関する市民意識調査」

- ・調査実施:北広島市
- ・調査対象:20歳以上の市民1,000人(無作為抽出)
- ・調査期間:平成21年2月27日～平成21年3月13日
- ・調査方法:郵送による
- ・回答結果:有効回収数(率) 455人 45.5%

【前々回調査】...「男女平等参画に関する市民意識調査」

- ・調査実施:北広島市
- ・調査対象:20歳以上の市民600人(無作為抽出)
- ・調査期間:平成15年6月13日～平成15年6月29日
- ・調査方法:郵送による
- ・回答結果:有効回収数(率) 223人 37.2%

【北海道調査】...「DV(配偶者からの暴力)に関する意識調査」

- ・調査実施:北海道
- ・調査対象:道内に居住する満20歳以上の男女1,600人(層化二段無作為抽出)
- ・調査期間:平成23年8月25日～平成23年10月28日
- ・調査方法:郵送による
- ・回答結果:有効回収数(率) 567人 35.4%

【内閣府調査】...「男女共同参画社会に関する世論調査」

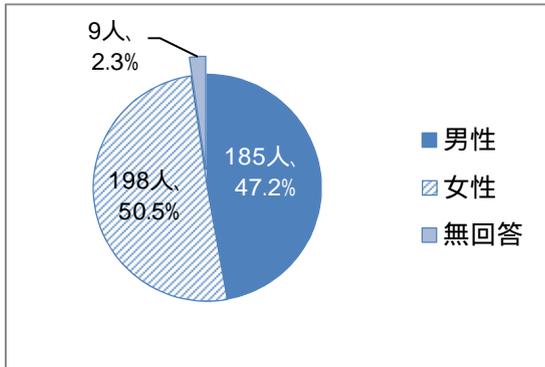
- ・調査実施:内閣府
- ・調査対象:全国20歳以上の日本国籍を有する者5,000人(層化二段無作為抽出)
- ・調査期間:平成24年10月11日～平成24年10月28日
- ・調査方法:調査員による個別面接聴取法
- ・回答結果:有効回収数(率) 3,033人 60.7%

【内閣府調査(暴力)]...「男女間における暴力に関する調査報告書」

- ・調査実施:内閣府
- ・調査対象:全国20歳以上の男女5,000人(層化二段無作為抽出)
- ・調査期間:平成23年11月～平成23年12月
- ・調査方法:郵送留置不問回収法
- ・回答結果:有効回収数(率) 3,293人 65.9%

回答者の属性

男女別

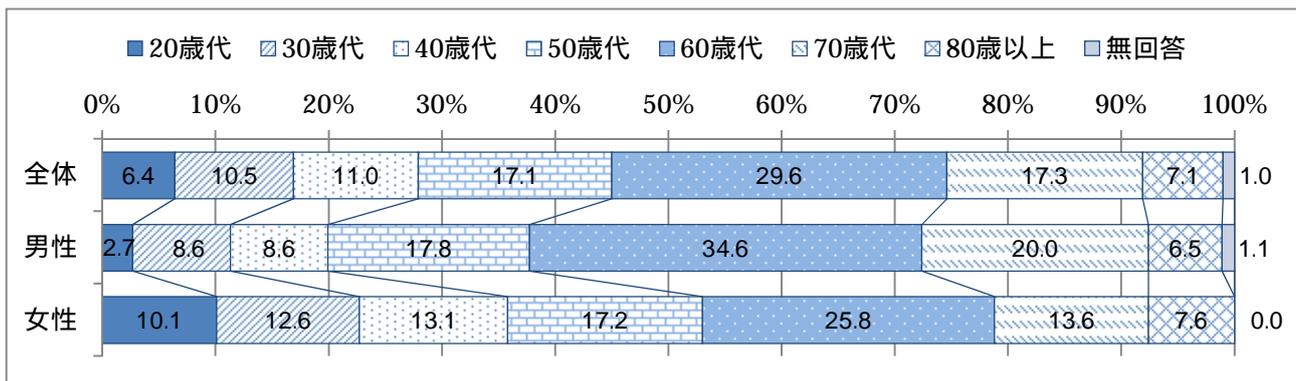


男女別の回答率は、回答者に占める女性の割合が男性より3.3ポイント高く、北広島市の男女比と概ね同じになっています。

年齢別

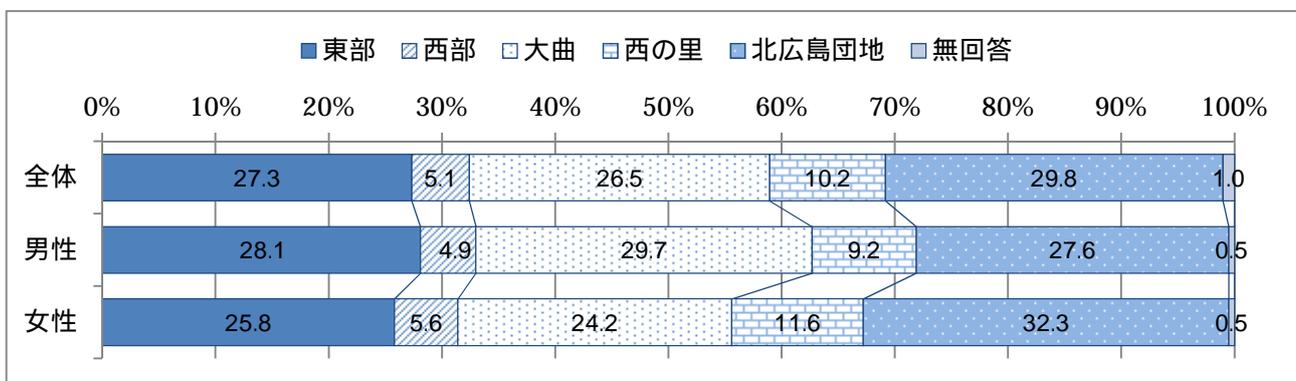
回答者の年齢層は、60代から70代が多くなっています。

女性では、20代から40代からの回答が多く、男性では50代以上からの回答が多くなっています。



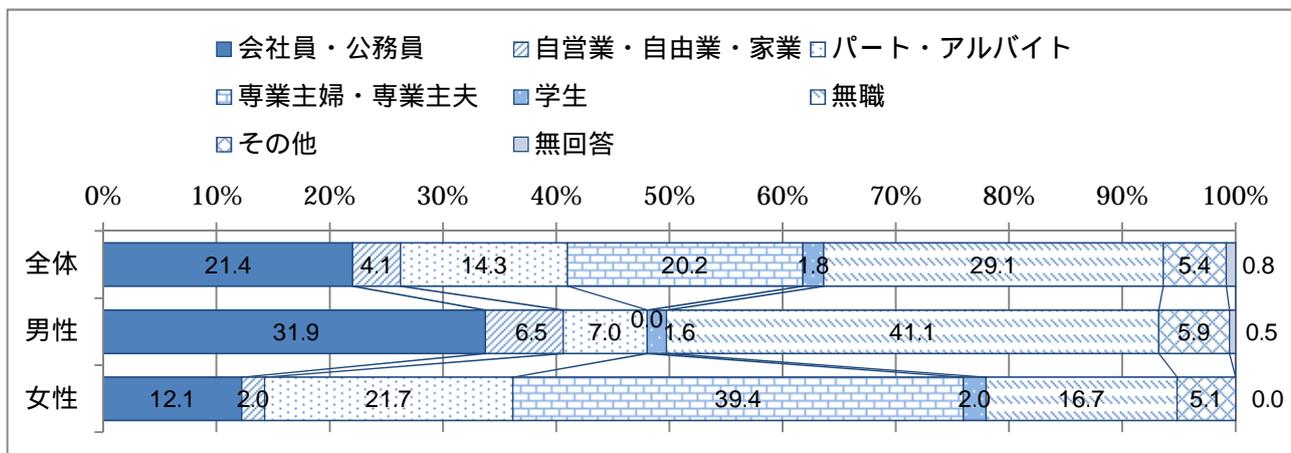
地区別

回答者の地区別割合は、北広島市の地区別人口割合とほぼ同じとなっています。



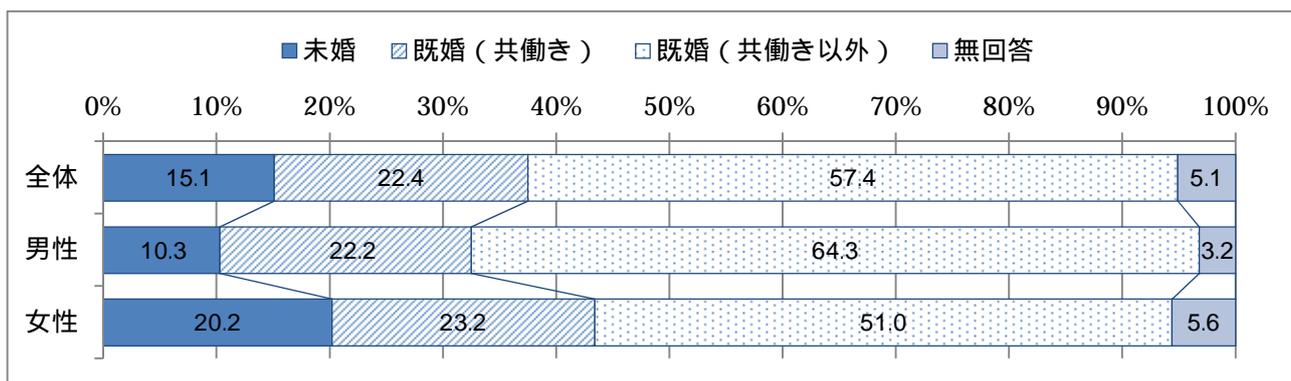
職業別

職業別では、「無職」が一番多く、次いで「会社員・公務員」、「専業主婦・主夫」となっています。



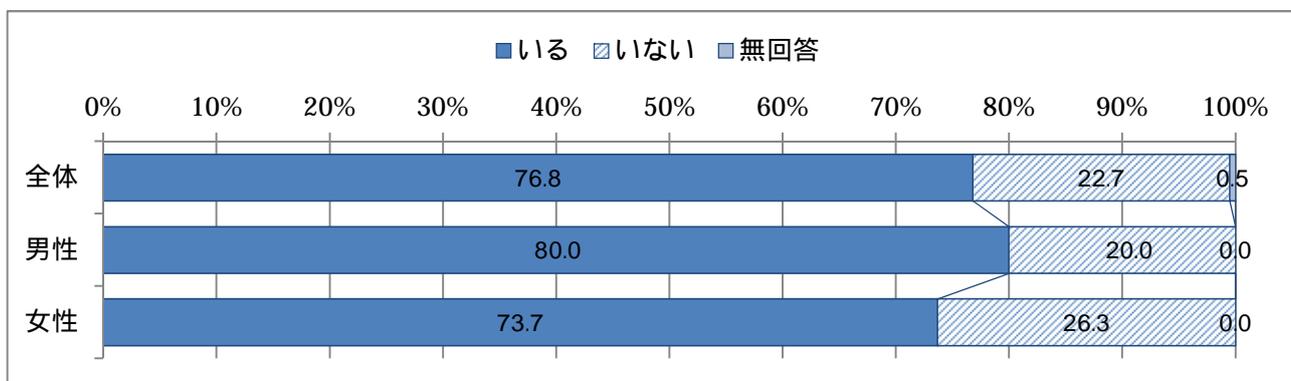
未婚・既婚の別

79.8%が既婚者で、そのうち57.4%は共働き以外と回答しています。



子どもの有無

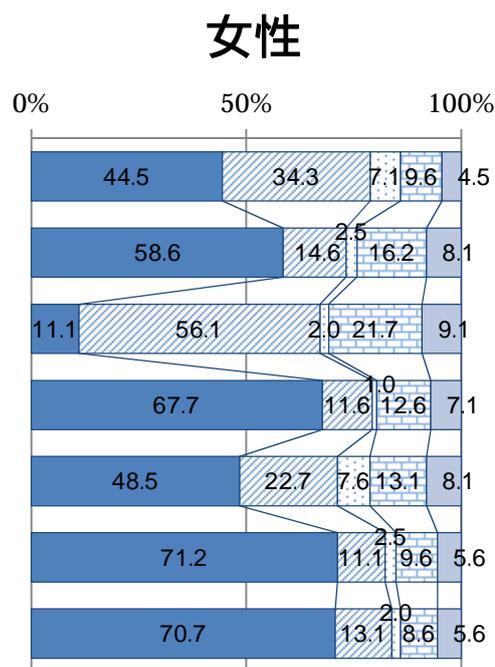
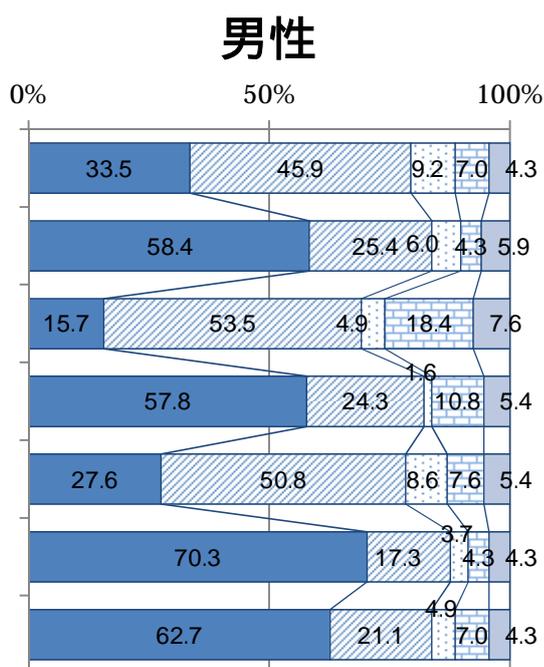
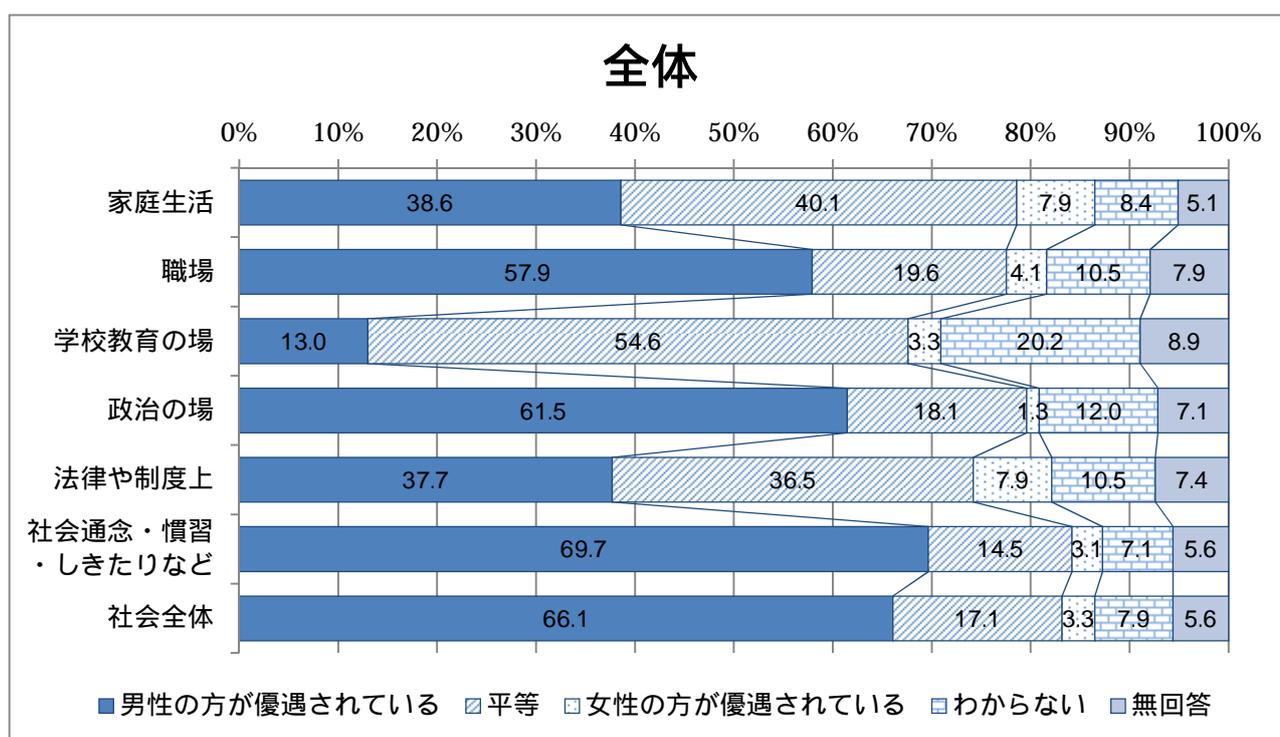
76.8%の人に子どもがいます。



(1) 男女共同参画社会に関する意識について

男女の地位の平等意識

問1 あなたは、次にあげる各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近い番号を選んでください。(それぞれの分野で は1つ)

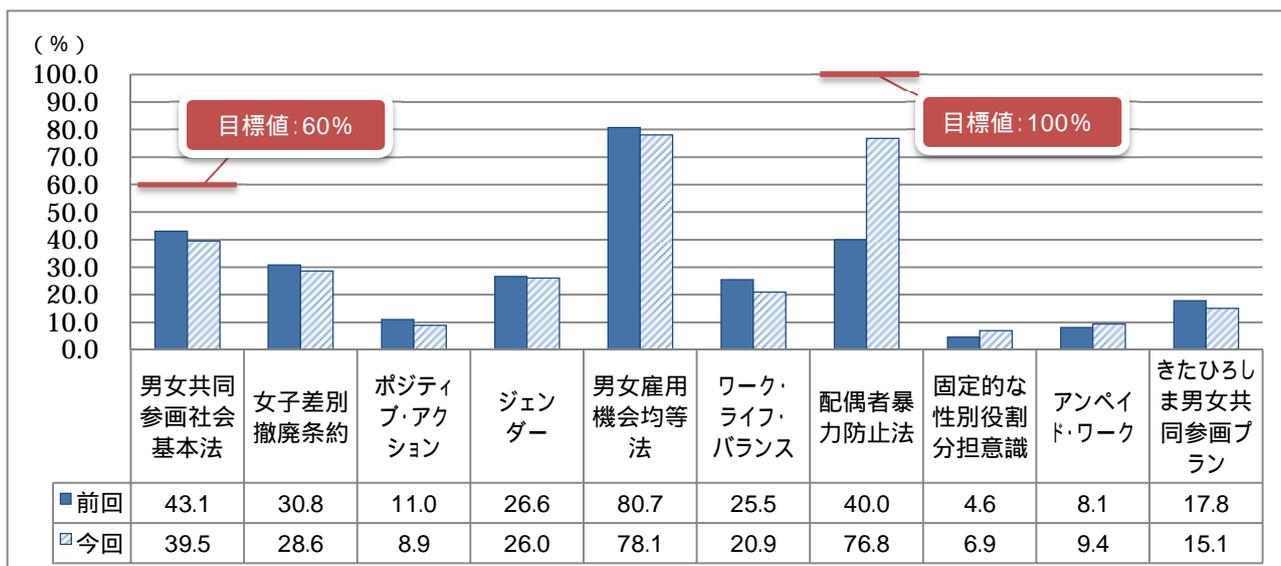


「男性の方が優遇されている(男性の方が非常に優遇されている+男性の方が優遇されている)」と思う分野は「社会通念・慣習・しきたりなど」69.7%、「社会全体」66.1%、「政治の場」61.5%、「職場」57.9%等の回答割合が高くなっています。

「平等」とした回答した人の割合が高いのは「学校教育」54.6%、「家庭生活」40.1%、「法律や制度上」36.5%となっています。

「男女共同参画」に関する用語の認知度

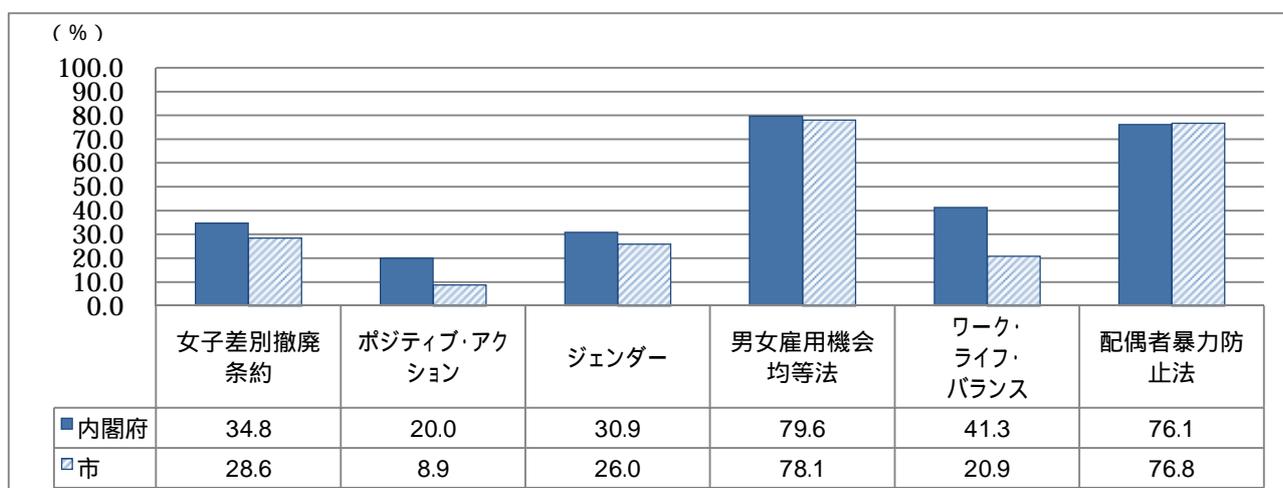
問2 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(該当するものすべてに)



男女共同参画に関する用語のうち、「男女共同参画社会基本法」と「配偶者暴力防止法」については、それぞれ市のプランの中で目標値が設定されています。

「男女共同参画社会基本法」については前回(平成20年度)の43.1%に比べて39.5%と伸び悩みましたが、「配偶者暴力防止法」は前回の40.0%と比較して76.8%と、大きく認知が進んでいます。

→内閣府調査との比較

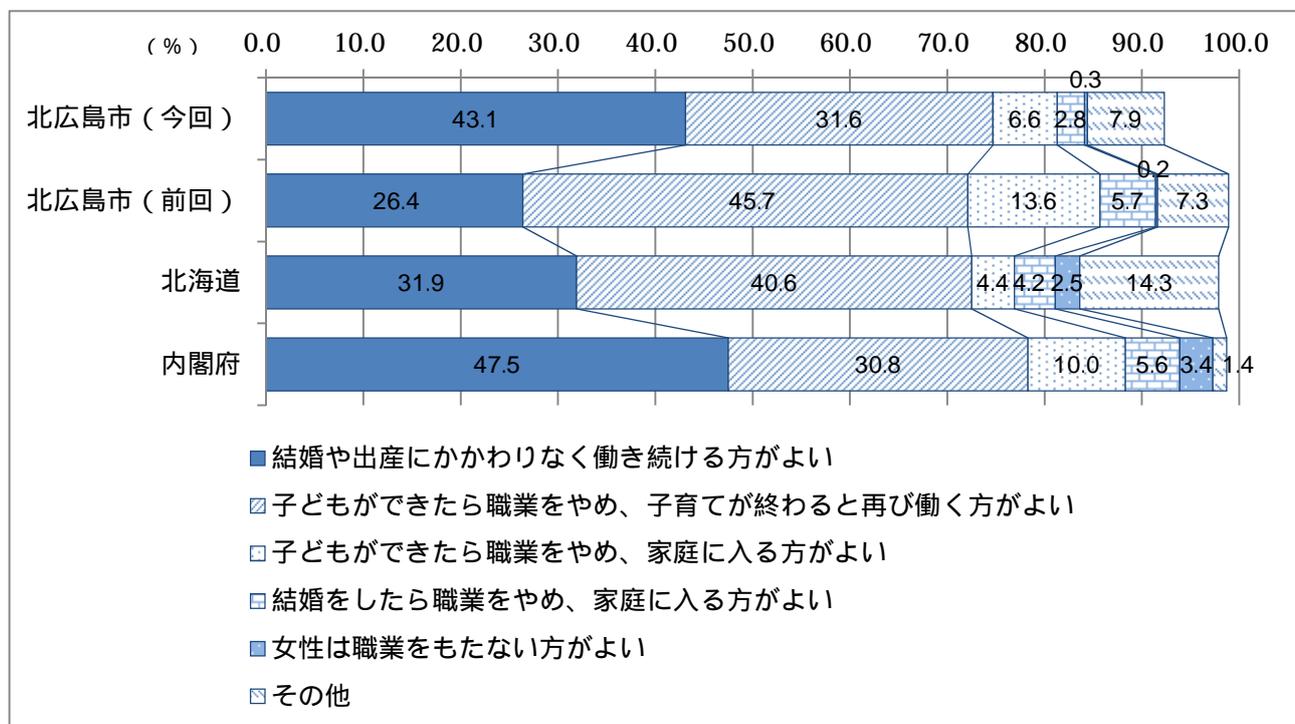


内閣府の調査結果と比較すると、「ポジティブ・アクション」(内閣府20.0%、市8.9%)と「ワーク・ライフ・バランス」(内閣府41.3%、市20.9%)を見たり聞いたりしたことがある人の率が低くなっています。

(2) 職業について

女性が職業をもつことについて

問3 あなたは、女性が職業をもつことについて、どう思いますか。(は1つ)

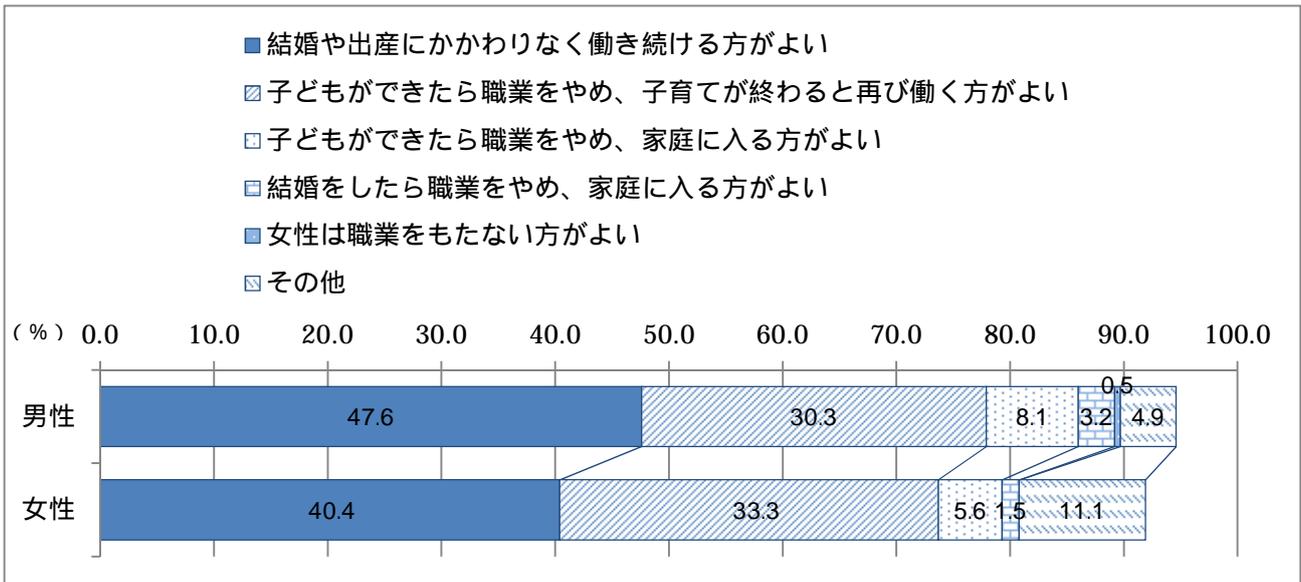


選択肢の「わからない」「無回答」の表示は省略しています。

「結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい」と回答した人の割合が43.1%(前回調査26.4%)と最も高くなっており、次に、「子どもができたなら職業をやめ、子育てが終わると再び働く方がよい」と回答した人の割合が31.4%(前回調査45.7%)となっています。

前回調査まで、「結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい」と「子どもができたなら職業をやめ、子育てが終わると再び働く方がよい」の選択肢では、全国調査と北広島市において順位に差がありましたが、今回調査で同じになっています。

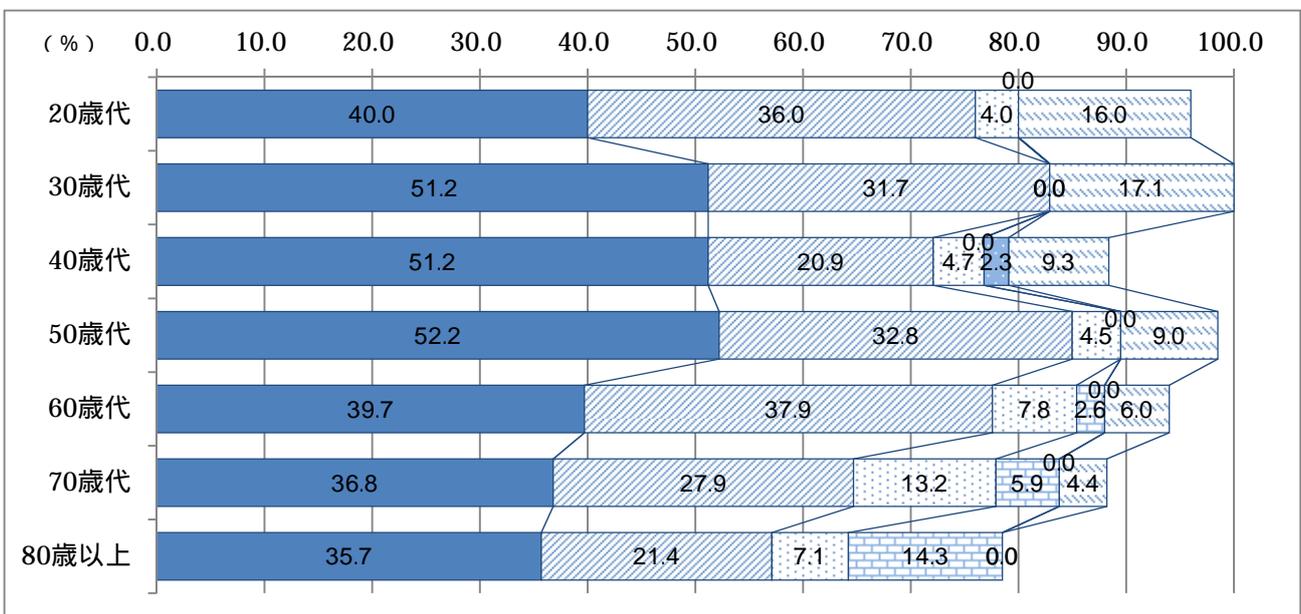
→男女別の割合



男女別に見ると、男性では「結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい」と回答した人の割合が高く、女性では「その他」と回答した人の割合が高くなっています。

「その他」の内容の多くは、「どちらともいえない(個人の自由、家庭の事情による、選択の自由があるといい)」となっています。

→年齢別の割合



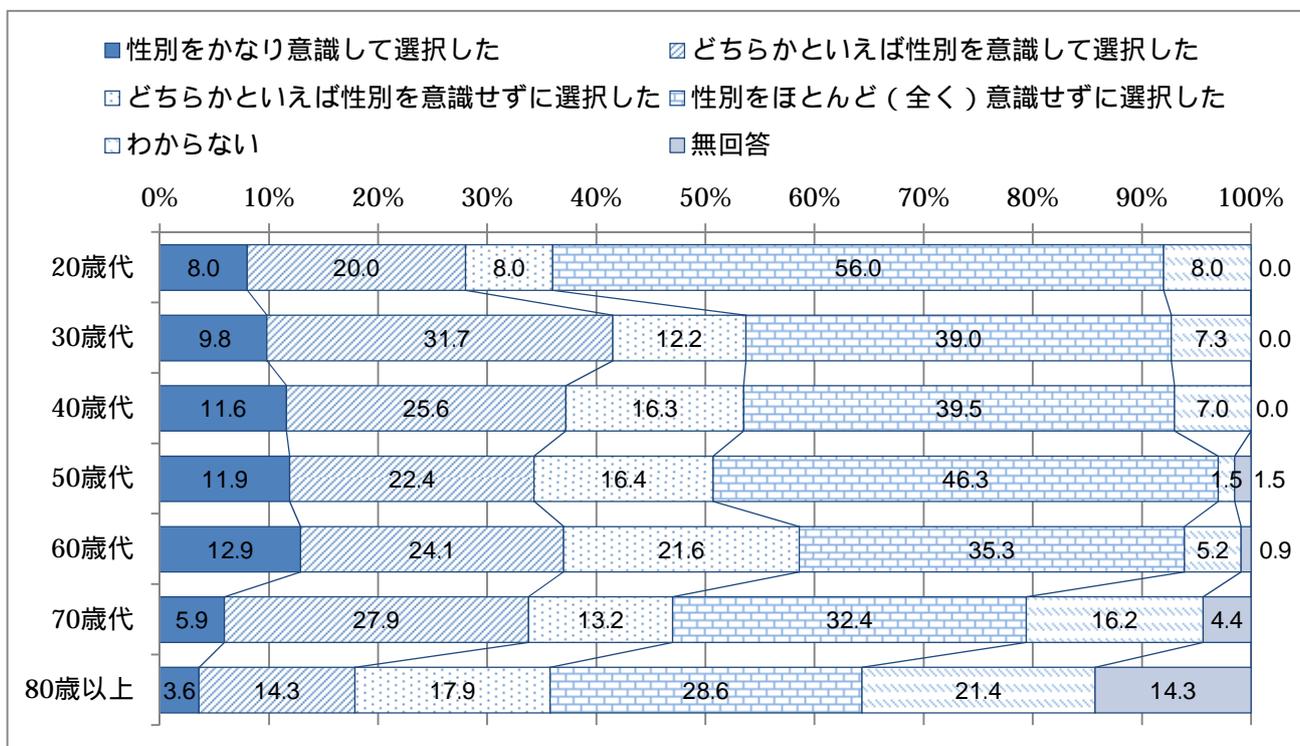
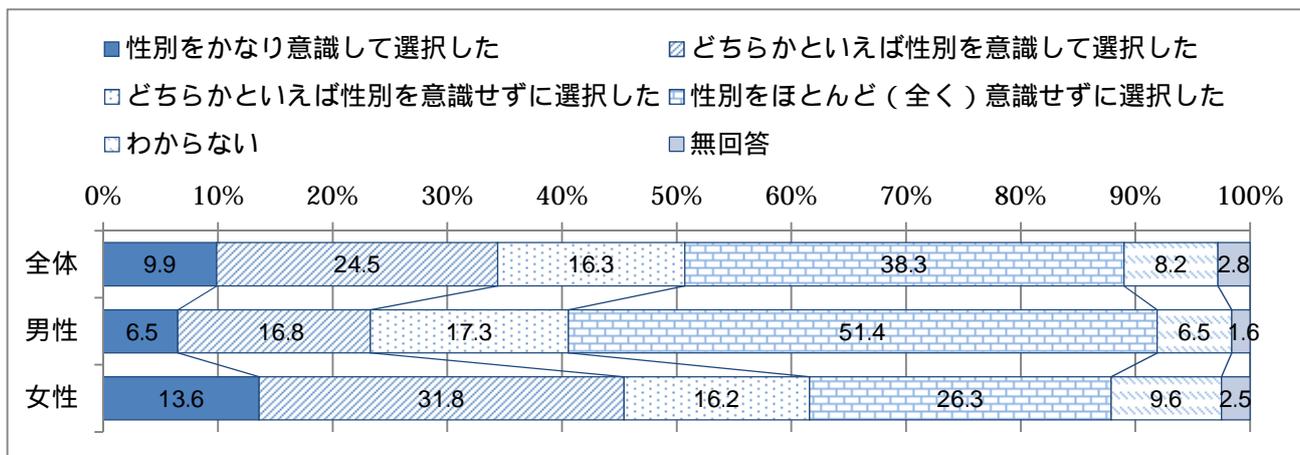
年齢別に見ると、どの世代でも「結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい」が最も多くなっています。

20歳代と30歳代では、他の世代と比較して、「その他」と回答した人の割合が高くなっています。

また、「結婚したら職業をやめ、家庭に入る方がよい」と回答した人の割合は、60歳代から上の年代になるにつれ、高くなっています。

進路や職業を選択する際に、性別を意識したか

問4 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(は1つ)

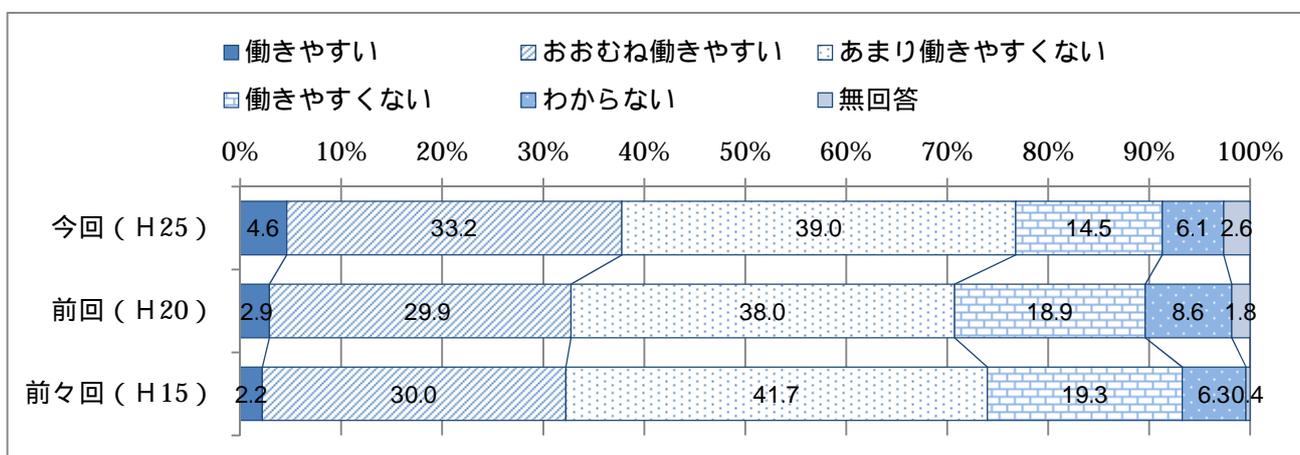
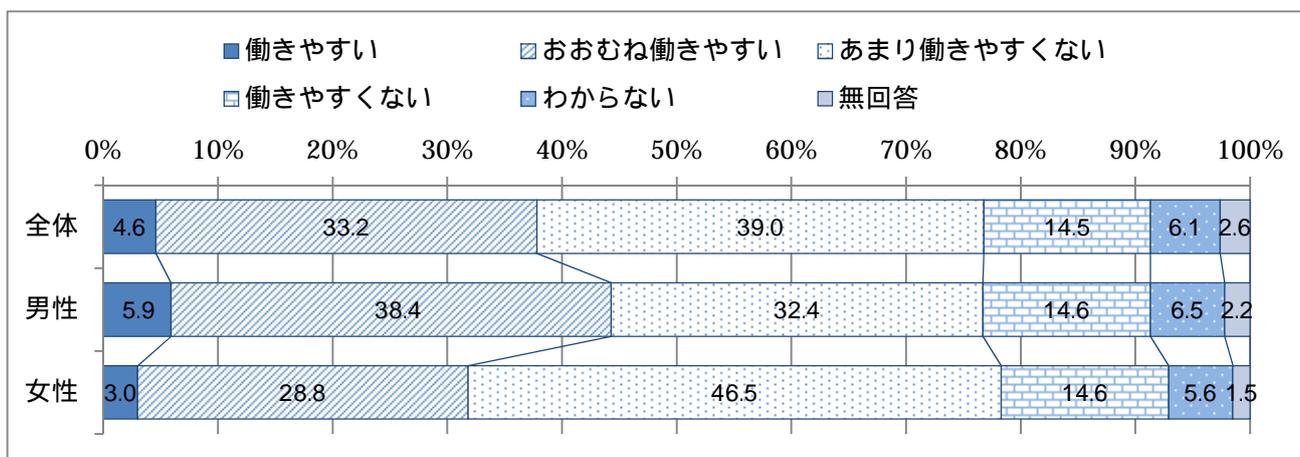


「性別を意識して選択した(性別をかなり意識して選択した + どちらかといえば性別を意識して選択した)」とする人の割合が 34.4%、「性別を意識せずに選択した(どちらかといえば性別を意識せずに選択した + 性別をほとんど(全く)意識せずに選択した)」とする人の割合が 54.6%となっています。

男女別に見ると、「性別を意識して選択した」とする人の割合は女性で、「性別を意識せずに選択した」とする人の割合は男性で、それぞれ高くなっています。

女性が働きやすい社会

問5 あなたは、今の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(は1つ)

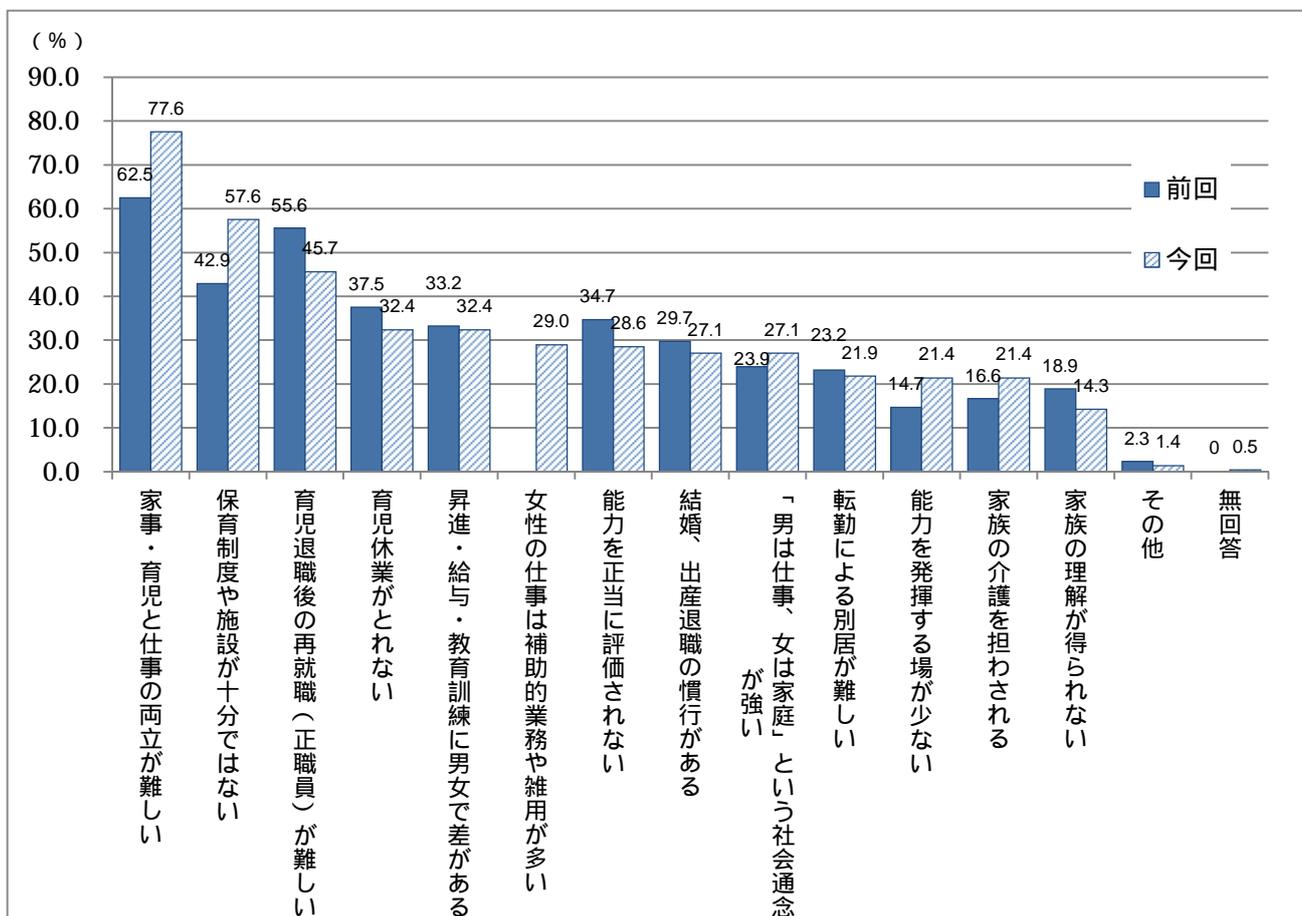


今の社会は女性が「働きやすい(働きやすい+おおむね働きやすい)」と回答した人の割合は、37.8%となり前回(32.8%)と前々回(32.2%)と比較してその割合は多少上がっています。

しかし、依然として全体の半数以上(53.5%)が「働きやすくない(働きやすくない+あまり働きやすい)」と回答しており、男女別で比較すると、男性は47.0%、女性は61.1%と、女性の方が回答率が高くなっています。

働きやすい理由

問5-1 問5で「3 あまり働きやすい」、「4 働きやすい」を選んだ方にお聞きます。女性が「働きやすい」大きな原因と思うものを選んでください。(は5つまで)



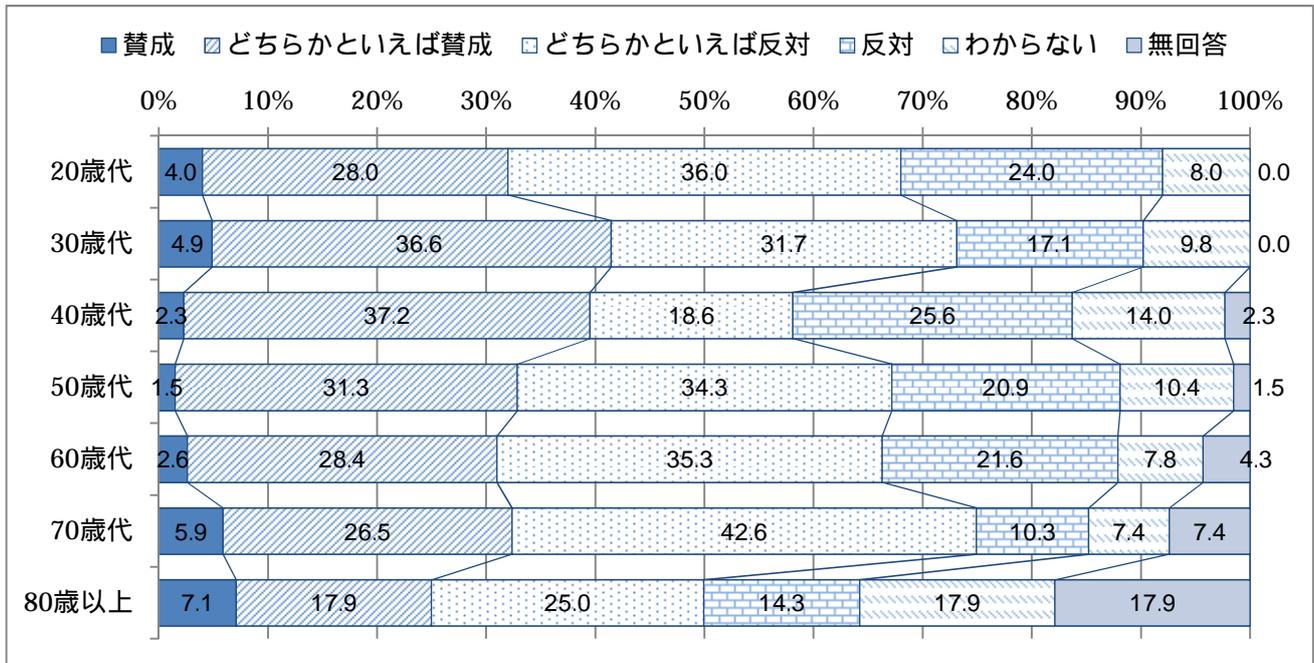
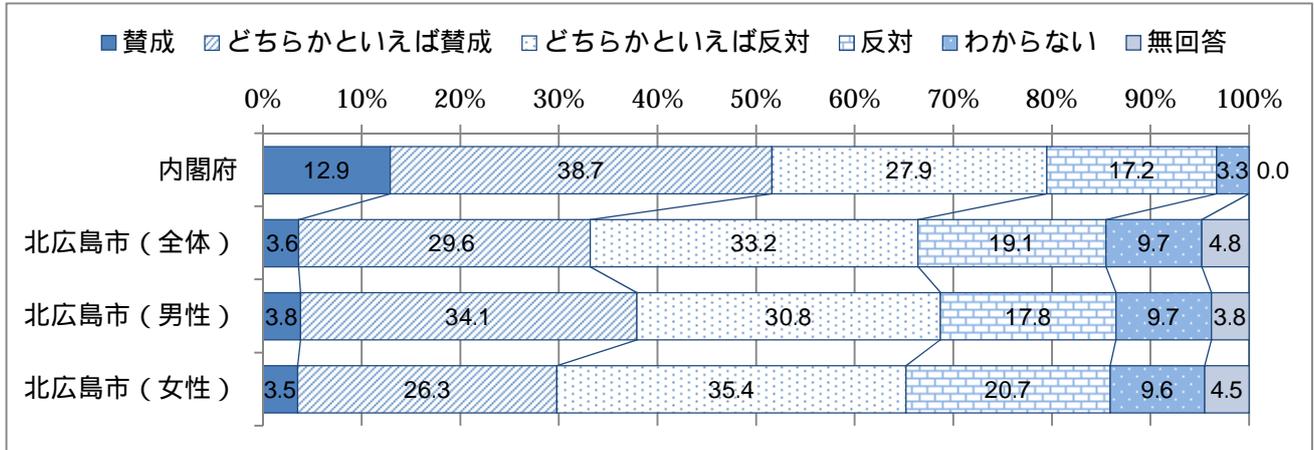
問5で「あまり働きやすい」「働きやすい」と回答した人 53.5% (210人) の中で、働きやすい大きな原因は「家事・育児と仕事の両立が難しい」ためと回答した人が 77.6% と最も多く、次いで「保育制度や施設が十分ではない」と回答した人が 57.6% と、以上 2 つの項目で半数以上の人が回答をしています。

前回調査と比較すると、「家事・育児と仕事の両立が難しい」「保育制度や施設が十分ではない」「女性の仕事は補助的業務や雑用が多い」が回答率を上げ、「育児退職後の再就職(正職員)が難しい」の回答率が下がっています。

(3) 家庭生活に関する意識について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問6 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(は1つ)



家庭生活について、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるか聞いたところ、「賛成(賛成+どちらかといえば賛成)」と回答した人の割合が33.2%、「反対(反対+どちらかといえば反対)」と回答した人の割合が52.3%となっています。

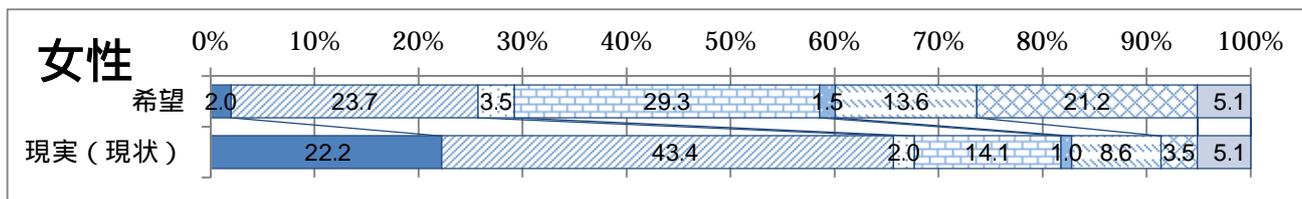
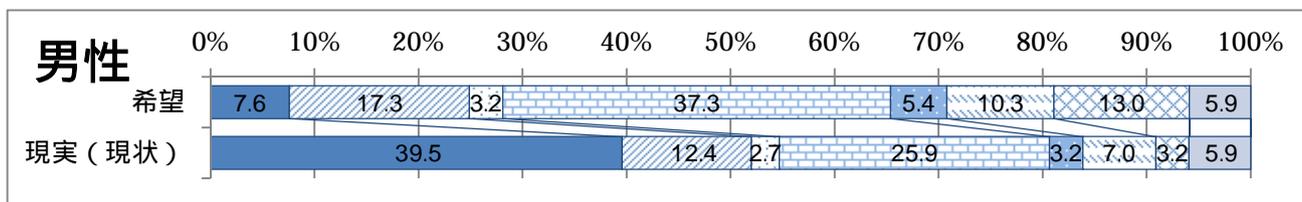
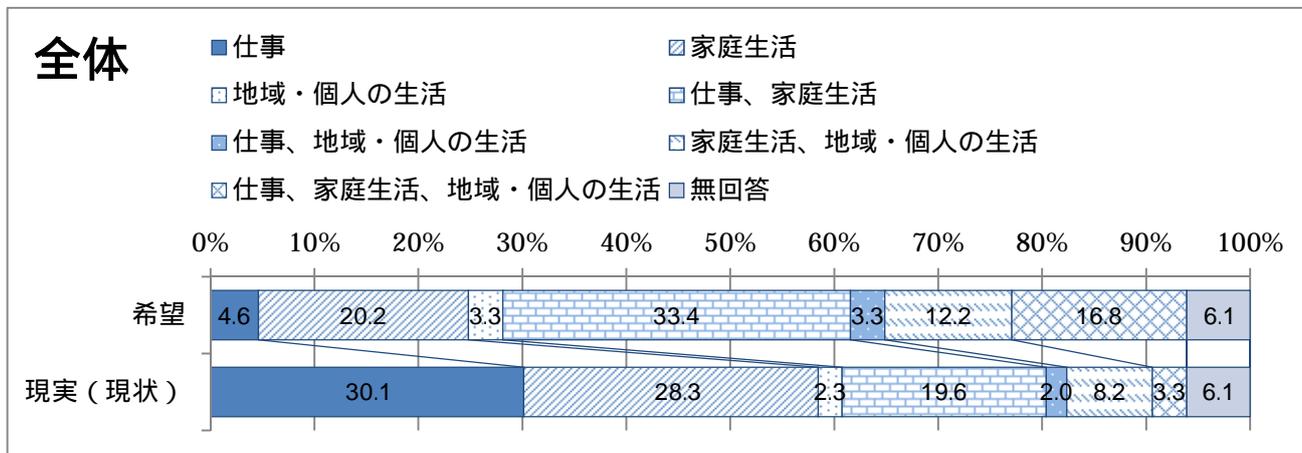
前回の調査結果と比較して見ると、「賛成」(28.4% → 33.2%)と回答した人の割合が上昇し、「反対」(61.3% → 52.3%)とする人の割合が低下しています。

男女別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は男性で、「反対」と回答した人の割合は女性で、それぞれ高くなっています。

内閣府の調査結果と比較すると、内閣府では「賛成」と回答した人の割合が51.6%と過半数を超えたのに対し、市では「反対」と回答した人の割合の方が高くなっています。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方

問7 生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、あなたの「希望」と「現実(現状)」に最も近いものを選んでください。(それぞれ 1つ)



生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、希望に最も近いものを聞いたところ、「仕事と家庭生活をともに優先したい」といった複数の活動をバランスよく行いたいとする人の割合が最も高く 33.4%となっていますが、現実には、「仕事」あるいは「家庭」など、単一の活動を優先している人の割合が最も高くなっています。

このように「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度に関する希望と現実の乖離は大きく、希望する生活と現実の生活が一致している人は 34.5%に留まっています。

男女別に見ると、男性は「仕事」優先を希望する人は、8.1%にすぎませんが、現実には 39.5%の人が「仕事」優先となっています。また、女性も共通して「仕事」優先が高くなっているほか、「家庭」優先を希望とする人が 23.7%のところ、現実には 43.4%が「家庭」優先となっており、男性と比べて傾向が異なっています。

内閣府の調査結果と比較すると、市では「仕事と家庭生活をともに優先したい」の回答率が高く、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の回答率が低くなっています。また、希望する生活と現実の生活が一致している人は、内閣府(15.2%)と比べて市(34.5%)は高くなっています。

→希望と現実の一致・不一致（全体）

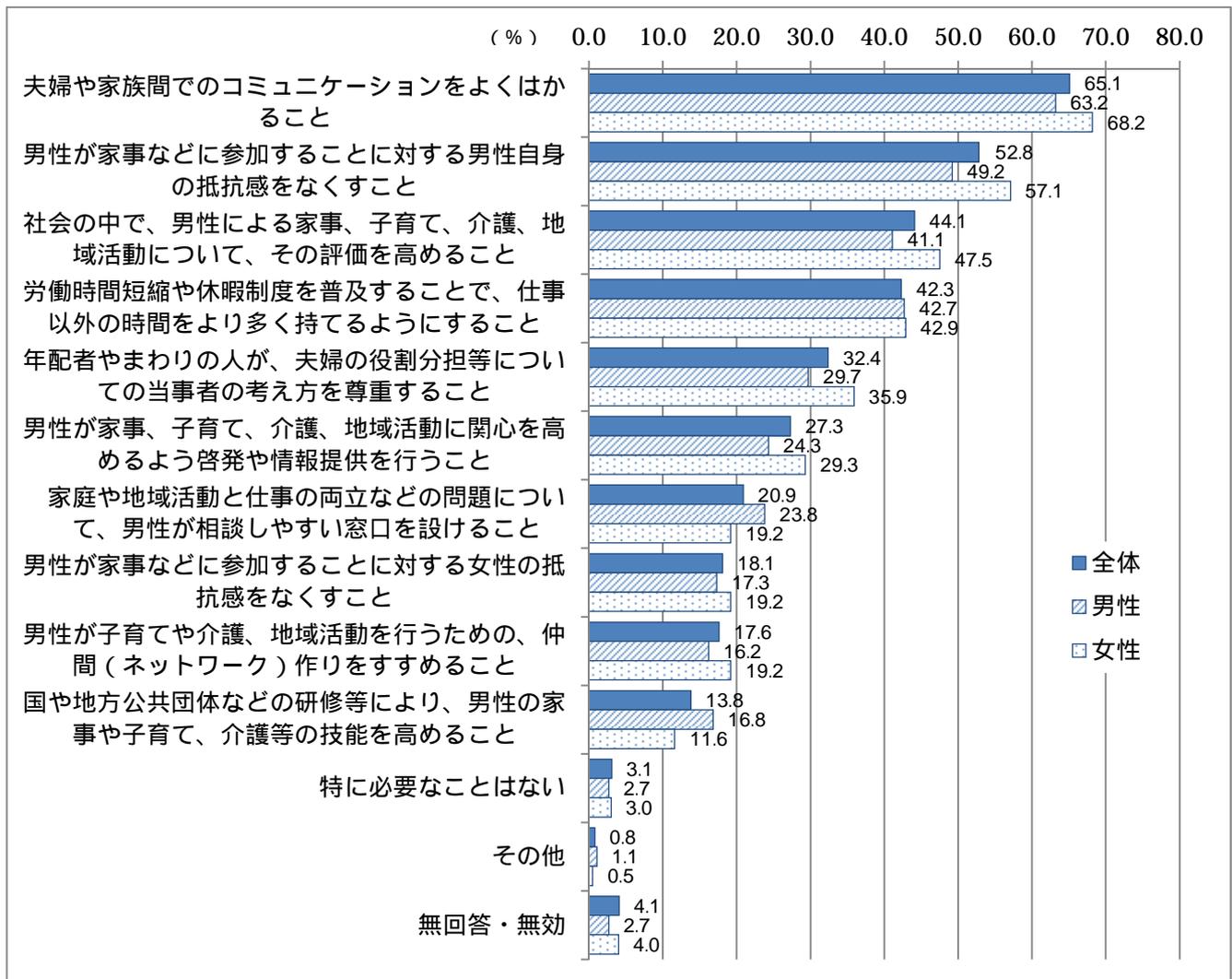
		現実(現状)								
		仕事	家庭生活	地域・個人の生活	仕事、家庭生活	仕事、地域・個人の生活	家庭生活、地域・個人の生活	仕事、家庭生活、地域・個人の生活	無回答・無効	計
希望	仕事	3.6%	0.5%	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	-	4.6%
	家庭生活	7.4%	9.7%	0.3%	1.8%	0.5%	0.0%	0.5%	-	20.2%
	地域・個人の生活	0.3%	1.5%	1.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	-	3.3%
	仕事、家庭生活	12.0%	8.7%	0.3%	11.5%	0.3%	0.8%	0.0%	-	33.4%
	仕事、地域・個人の生活	1.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.8%	0.3%	0.3%	-	3.3%
	家庭生活、地域・個人の生活	0.5%	4.1%	0.3%	1.3%	0.3%	5.6%	0.3%	-	12.2%
	仕事、家庭生活、地域・個人の生活	5.1%	3.6%	0.3%	4.3%	0.3%	1.0%	2.3%	-	16.8%
	無回答・無効	-	-	-	-	-	-	-	6.1%	6.1%
計	30.1%	28.3%	2.3%	19.6%	2.0%	8.2%	3.3%	6.1%	99.9%	

希望と現実が一致している人 **34.5%**

希望のみ記入して、現実(現状)を記入していないものについては、無効としました。
 ('仕事' 1件、'仕事、家庭生活' 5件、'仕事、家庭生活、地域・個人の生活' 1件)

男女がともに、家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと

問8 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思いますか。(該当するものすべてに)



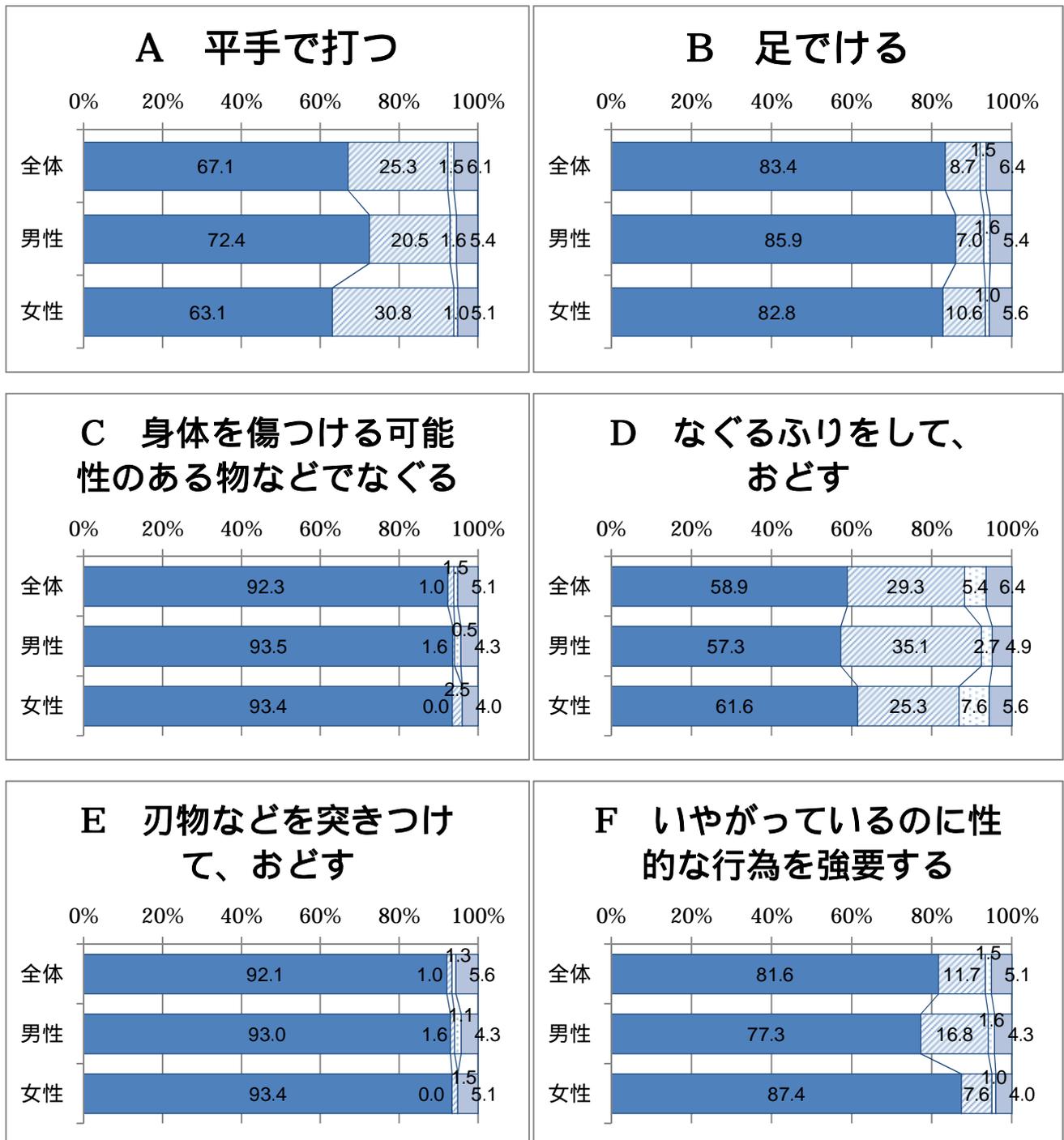
男女がともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」を挙げた人の割合が 65.1%と最も高く、以下、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(52.8%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」(44.1%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(42.3%)の順となっています。

(4) 人権に関する意識について

DV（配偶者等からの暴力）の認識

問9 DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や交際相手の中で起こる暴力のことをいいます。あなたは、次の行為が暴力にあたると思いますか。(それぞれの項目で は1つ)

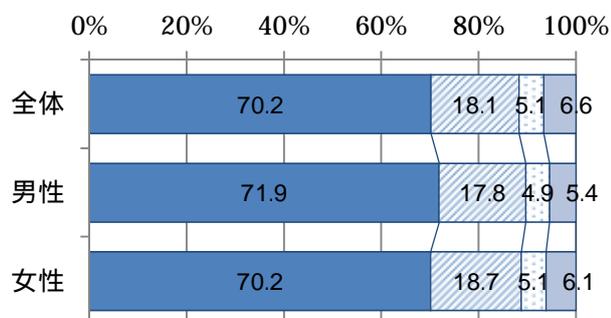
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



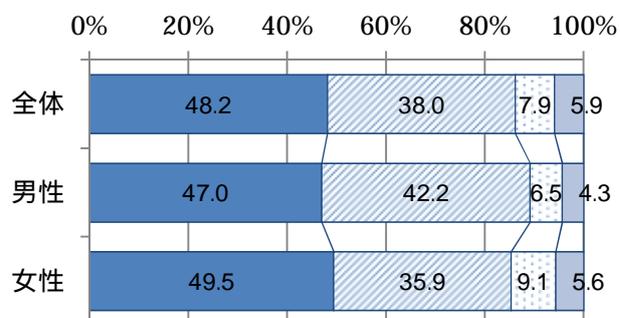
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたるとは思わない

- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- 無回答

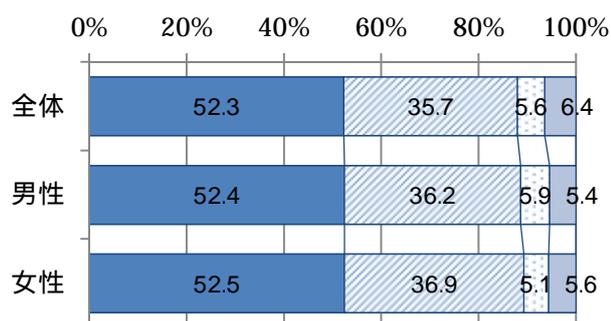
G 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



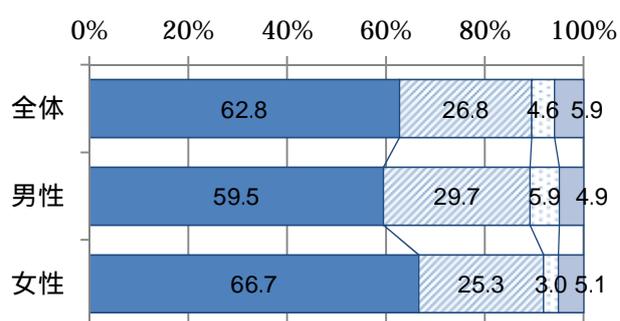
H 何を言っても長時間無視し続ける



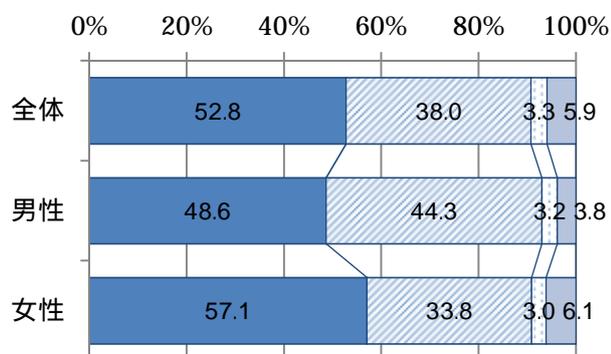
I 交友関係や電話を細かく監視する



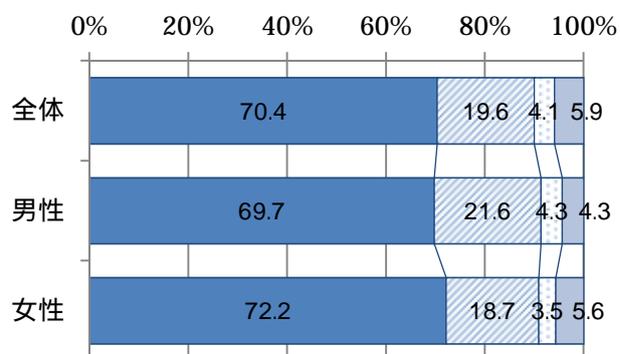
J 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う



K 大声でどなる



L 生活費を渡さない



「どんな場合でも暴力にあたると思う」回答割合が90%を超える行為は「身体を傷つける可能性のある物でなくる」と「刃物などを突きつけて、おどす」となっています。

「足でける」及び「いやがっているのに性的な行為を強要する」は80%超、「見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」と「生活費を渡さない」については70%超となっています。

→ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合

(北広島市での割合が多かった順番に表示)

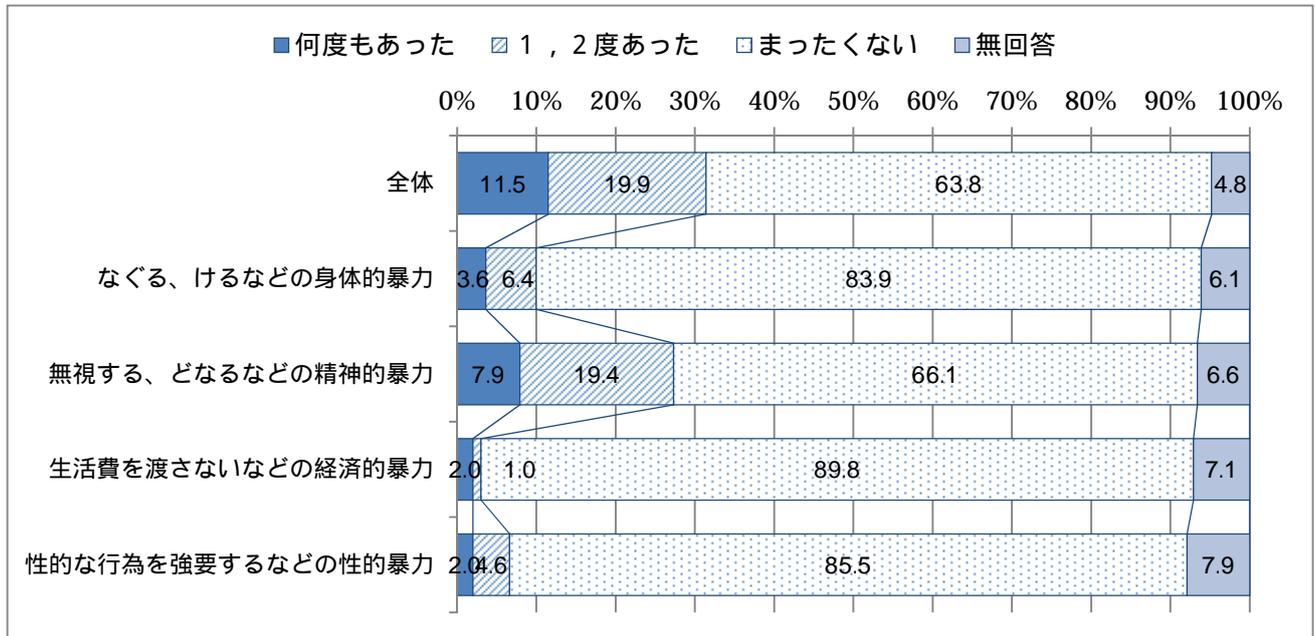
順位	回答項目	内閣府(暴力)	北海道	北広島市
1	身体を傷つける可能性のある物でなくる	93.1%	91.4%	92.3%
2	刃物などを突きつけて、おどす	91.4%	90.8%	92.1%
3	足でける	79.5%	83.1%	83.4%
4	いやがっているのに性的な行為を強要する	72.0%	78.7%	81.6%
5	生活費を渡さない	-	62.8%	70.4%
6	見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	55.7%	63.0%	70.2%
7	平手で打つ	59.6%	64.0%	67.1%
8	「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う	49.7%	57.7%	62.8%
9	なくるふりをして、おどす	52.3%	62.4%	58.9%
10	大声でどなる	41.2%	49.6%	52.8%
11	交友関係や電話を細かく監視する	39.8%	46.6%	52.3%
12	何を言っても長時間無視し続ける	44.5%	43.0%	48.2%

内閣府(暴力)、北海道の調査結果と比較すると、全体的に「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が高くなっています。

とりわけ「いやがっているのに性的な行為を強要する」「生活費を渡さない」「見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「『誰のおかげで生活できるんだ』『かいしょうなし』などと言う」「大声でどなる」「交友関係や電話を細かく監視する」について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が高くなっています。

DV（配偶者等からの暴力）を受けた経験について

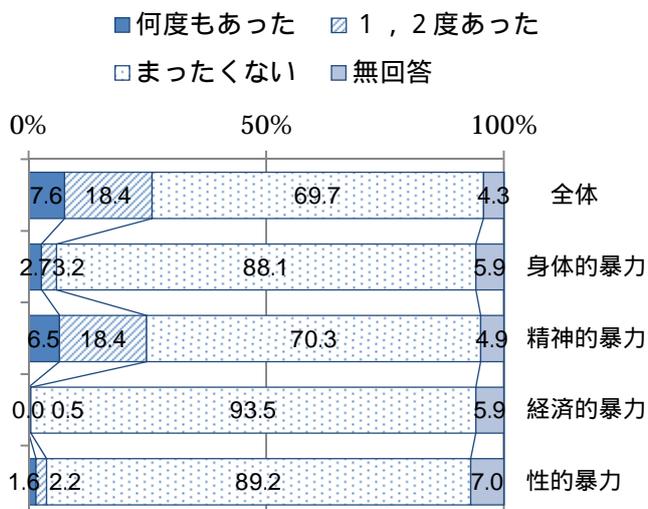
問10 あなたは、これまでに配偶者や交際相手から次のような暴力を受けたことがありますか。（それぞれの項目では1つ）



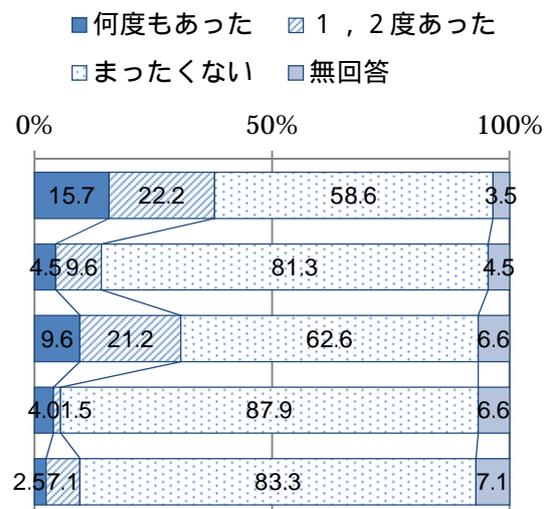
身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力のいずれかについて、配偶者や交際相手から被害を受けたことがあると回答した人(何度もあった + 1, 2度あった)の割合は31.4% (123人)となっています。男女別の内訳は、男性48人、女性75人となっています。

→男女別の割合

男性



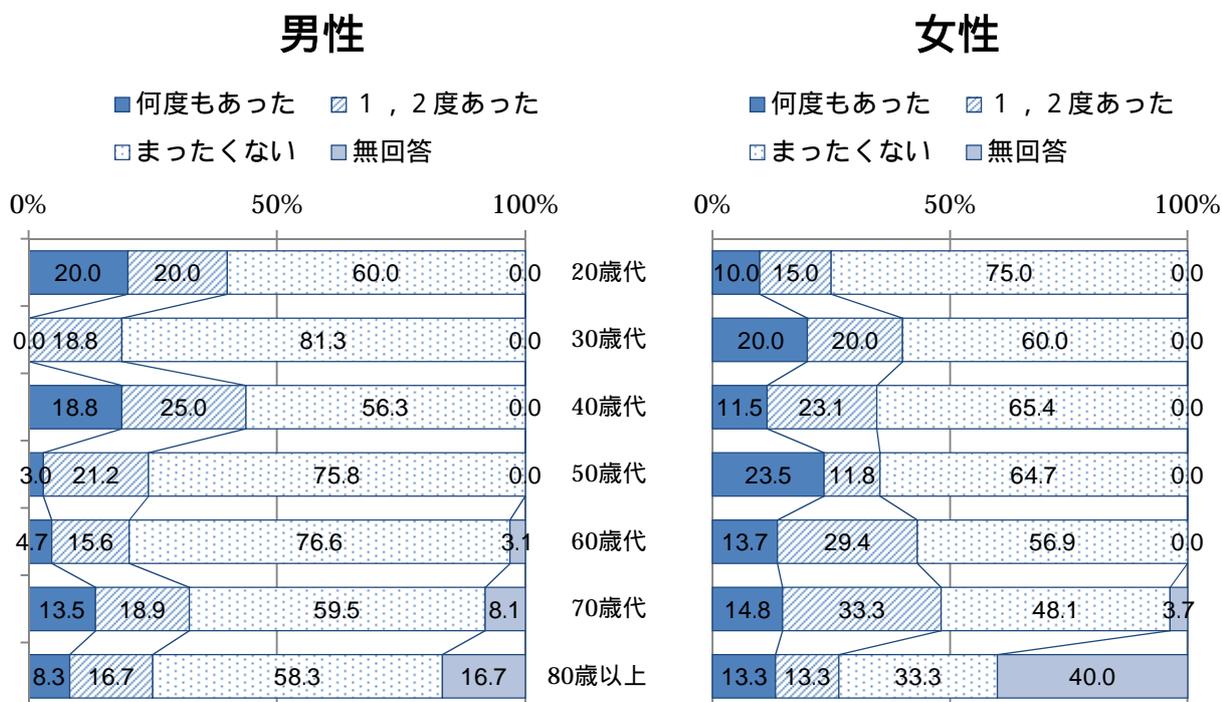
女性



男女別に見ると、被害を受けたことがあると回答した人の割合は、男性で26.0%、女性で37.9%となっています。

それぞれの行為について、「身体的暴力」は男性で 5.9%、女性で 14.1%、「精神的暴力」は男性で 24.9%、女性で 30.8%、「経済的暴力」は男性で 0.5%、女性で 5.5%、「性的暴力」は男性で 3.8%、女性で 9.6%となっています。いずれの行為も、女性の方が被害の経験が多くなっています。

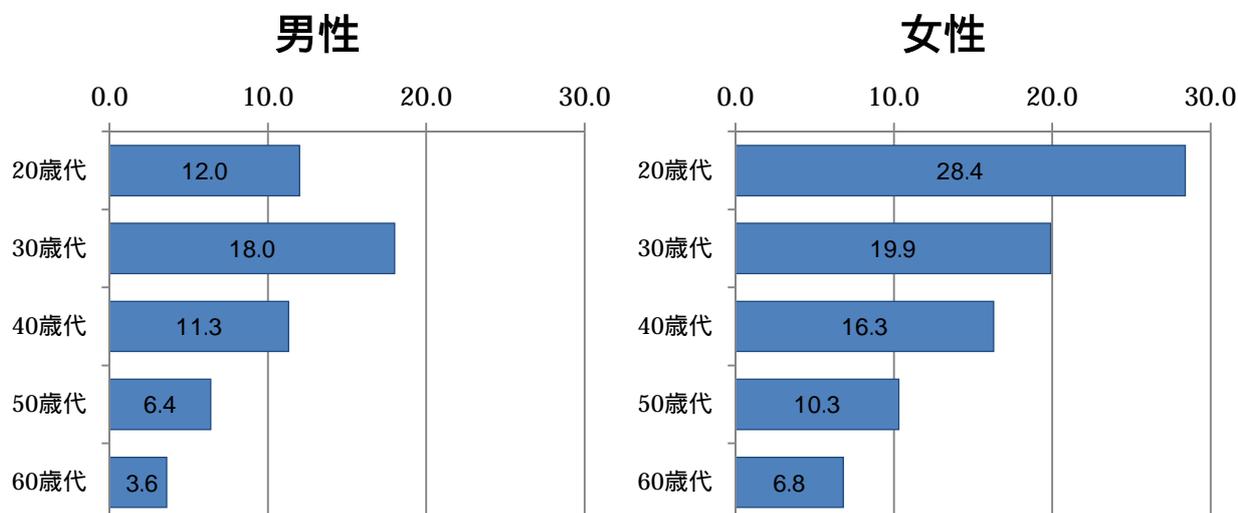
➔ 男女・年齢別の割合



男女・年齢別に見ると、被害を受けたことがあると回答した人は、どの世代でも1割を超えています。

問10では、過去に被害を受けたことがあるか聞いているため、年齢が高くなるほど経験が累計され、割合が高くなると推測されます。しかし、内閣府調査(下記)によると、配偶者からいずれかの被害を5年以内に受けた人の割合は、年齢が低くなるほど高くなる傾向があります。

(参考) 過去5年以内の被害経験の有無...「男女間における暴力に関する調査」(H23内閣府調査)



→DVを受けた経験の重複

相談先	全体	男性	女性
実数	123人	48人	75人
重複あり	34.8%	27.1%	40.1%
身体的暴力と精神的暴力	10.6%	10.4%	10.7%
身体的暴力と性的暴力	0.8%	0.0%	1.3%
精神的暴力と経済的暴力	2.4%	2.1%	2.7%
精神的暴力と性的暴力	8.1%	6.3%	9.3%
身体的暴力と精神的暴力と経済的暴力	2.4%	0.0%	4.0%
身体的暴力と精神的暴力と性的暴力	7.3%	8.3%	6.7%
精神的暴力と経済的暴力と性的暴力	1.6%	0.0%	2.7%
身体的暴力と精神的暴力と経済的暴力と性的暴力	1.6%	0.0%	2.7%
重複なし	64.9%	73.0%	60.1%
身体的暴力	8.9%	4.2%	12.0%
精神的暴力	52.8%	68.8%	42.7%
経済的暴力	1.6%	0.0%	2.7%
性的暴力	1.6%	0.0%	2.7%

被害を受けたことがあると回答した人(123人)について、項目別の被害を見ると、重複している人は34.8%となっています。男女別に見ると、男性の27.1%、女性の40.1%が重複して被害を受けています。

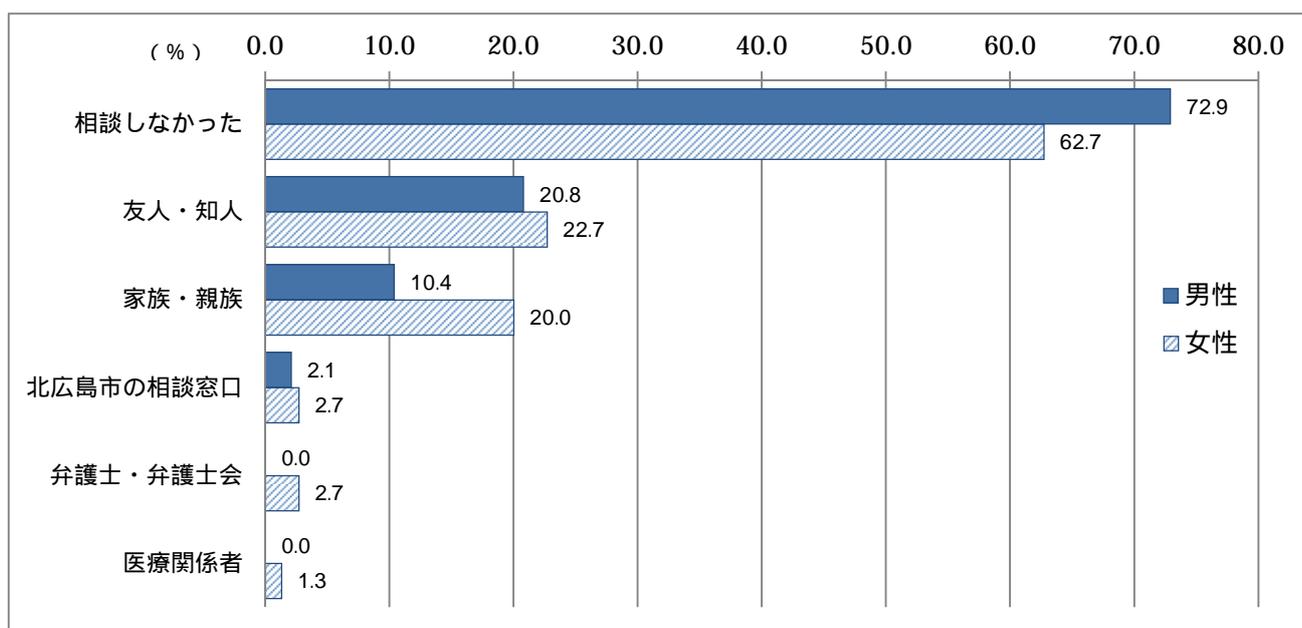
DV（配偶者等からの暴力）の相談先について

問10 - 1 そのとき、あなたはどこに相談しましたか。（該当するものすべてに ）

順位	相談先	回答者数	割合
1	どこ(だれ)にも相談しなかった	82	66.7%
2	友人・知人	27	22.0%
3	家族・親族	20	16.3%
4	北広島市の相談窓口	3	2.4%
5	弁護士・弁護士会	2	1.6%
6	医療関係者(医師・看護師など)	1	0.8%
7	北海道の相談窓口 警察の相談窓口 民間団体などの相談窓口 学校関係者(教員・スクールカウンセラーなど)	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	無回答・無効	4	3.3%

「どこ(だれ)にも相談しない」が66.7%で最も多く、次いで「友人・知人」22.0%、「家族・親戚」16.3%と続いています。このほか「北広島市の相談窓口」2.4%、「弁護士・弁護士会」1.6%、「医療関係者(医師・看護師など)」0.8%がありますが、少数回答となっています。

男女別に見ると、男性の「どこ(だれ)にも相談しなかった」の回答率が高くなっています。



相談しなかった理由

問10 - 2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(該当するものすべてに)

順位	相談先	回答者数	割合
1	相談するほどのことではないと思った	37	45.1%
2	自分にも悪いところがあると思った	28	34.1%
3	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った	19	23.2%
4	相談してもむだだと思った	17	20.7%
5	恥ずかしくてだれにも言えなかった	9	11.0%
6	他人を巻き込みたくなかった	6	7.3%
7	そのことについて思い出したくなかった	4	4.9%
8	相談先がわからなかった	3	3.7%
"	相談したことがわかると、加害者から仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	3	3.7%
10	他人に知られると、これまで通りの付き合いができなくなると思った	2	2.4%
11	同性の相談担当者がいなかった	1	1.2%
12	加害者から誰にも言うなとおどされた 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	0	0.0%
	その他	5	6.1%
	無回答・無効	4	4.9%

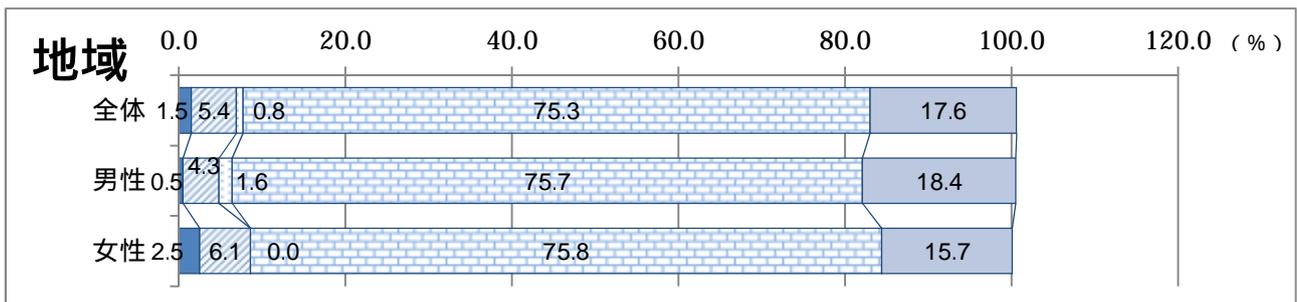
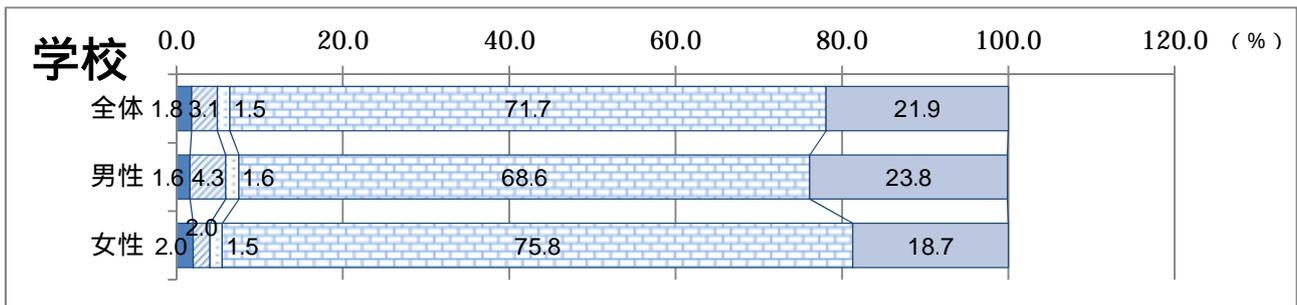
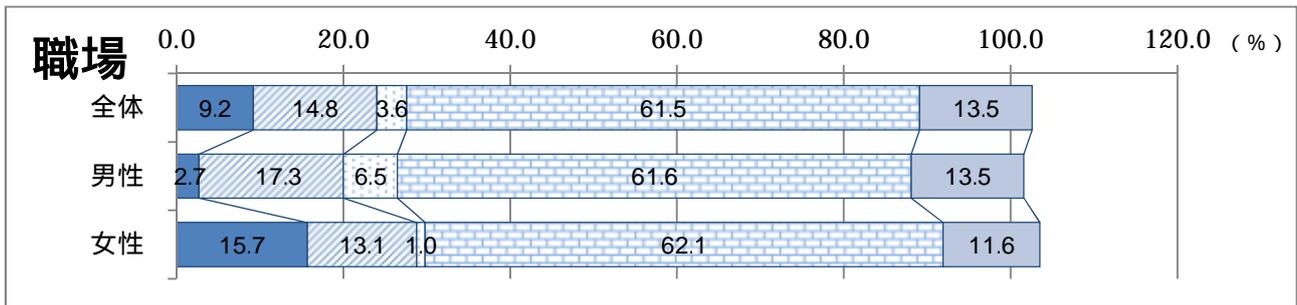
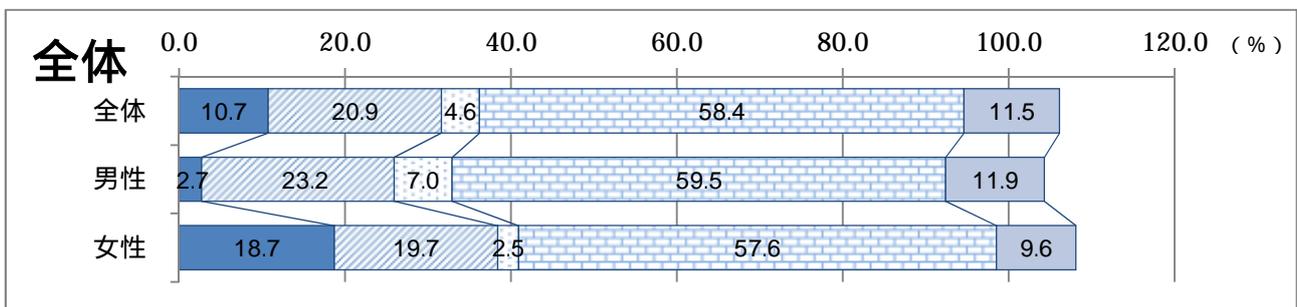
「相談するほどのことではないと思った」が45.1%であり、最も多くなっています。男性の62.9%が相談しなかった理由としてこれをあげています。次に多い回答が「自分にも悪いところがあると思った」34.1%、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った」23.2%となっています。

男女別に見ると、男性は「相談するほどのことではないと思った(男性62.9%、女性31.9%)」が最も多く、女性は「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った(男性5.7%、女性36.2%)」が最も多くなっています。

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験について

問11 あなたは、これまでに次のような場所でセクシュアル・ハラスメント(セクハラ・性的いやがらせ)を受けたり、身近な人がセクシュアル・ハラスメントを受けているのを見たり聞いたりしたことがありますか。(該当するものすべてに)

- 自分自身が受けたことがある
- ▨ 身近な女性が受けているのを見たり聞いたりしたことがある
- ▨ 身近な男性が受けているのを見たり聞いたりしたことがある
- ▨ 受けたことはない(見たり聞いたりしたことがない)
- 無回答



セクシュアル・ハラスメントを受けた経験があるか尋ねたところ、全回答者 392 人中、42 人(10.7%)が「自分自身が受けたことがある」と回答しました。男女別の内訳は男性 5 人、女性 37 人となっています。

前回調査と比較すると、前回調査結果では 40 人(8.8%)が「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」と回答しており、1.9 ポイント上昇しました。前回の男女別の内訳は男性 3 人、女性 37 人となっています。

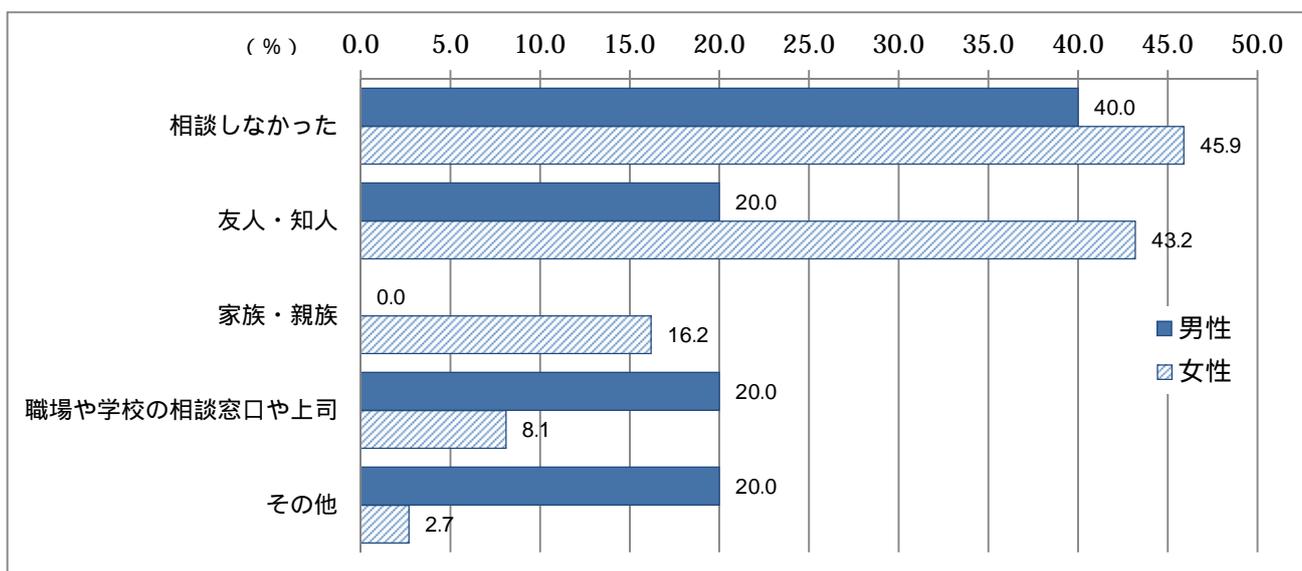
場所別に見ると、「自分自身が受けたことがある」と回答した人は、職場が一番多く 36 人(9.2%)、次いで学校が 7 人(1.8%)、地域が 6 人(1.5%)となっています。

セクシュアル・ハラスメントの相談先について

問11 - 1 そのとき、あなたはどこに相談しましたか。(該当するものすべてに)

順位	相談先	回答者数	割合
1	どこ(だれ)にも相談しなかった	19	45.2%
2	友人・知人	17	40.5%
3	家族・親族	6	14.3%
4	職場や学校の相談窓口や上司	4	9.5%
5	警察の相談窓口	0	0.0%
	警察以外の公的機関の相談窓口		
	民間団体などの相談窓口		
	弁護士・弁護士会		
	医療関係者(医師・看護師など)		
	その他	2	4.8%
	無回答	1	2.4%

「どこ(だれ)にも相談しない」が 45.2%で最も多く、次いで「友人・知人」40.5%、「家族・親戚」14.3%と続いています。男女別に見ると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」の回答率は女性が高くなっています。



相談しなかった理由

問11 - 2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(該当するものすべてに)

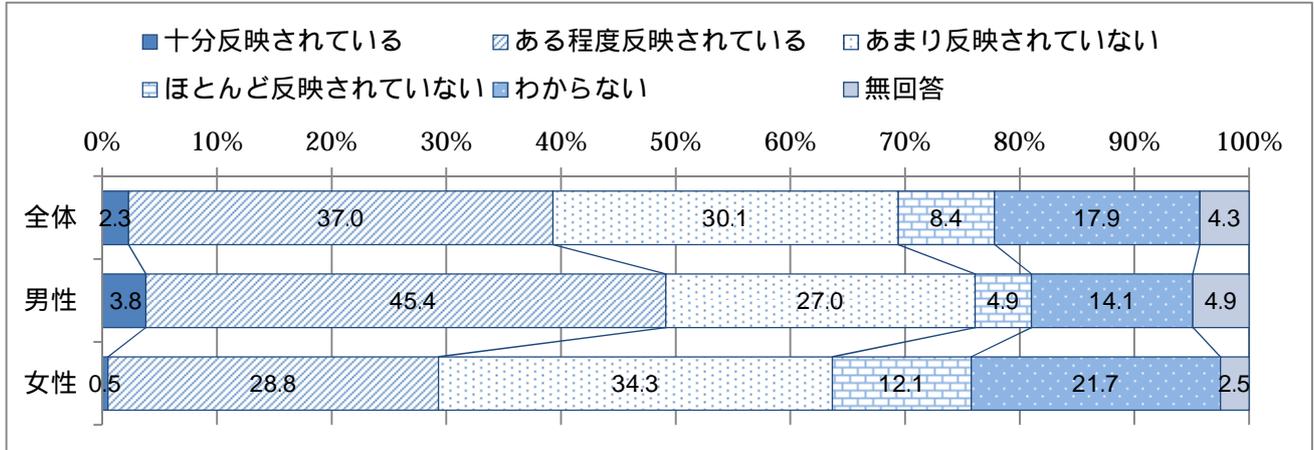
順位	相談先	回答者数	割合
1	相談するほどのことではないと思った	6	31.6%
"	相談してもむだだと思った	6	31.6%
3	恥ずかしくてだれにも言えなかった	4	21.1%
4	そのことについて思い出したくなかった	3	15.8%
5	相談先がわからなかった	2	10.5%
"	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った	2	10.5%
"	他人を巻き込みたくなかった	2	10.5%
8	相談したことがわかると、加害者から仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	1	5.3%
"	他人に知られると、これまで通りの付き合いができなくなると思った	1	5.3%
"	自分にも悪いところがあると思った	1	5.3%
11	同性の相談担当者がいなかった	0	0.0%
	加害者から誰にも言うなとおどされた		
	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った		
	その他	3	15.8%
	無回答	1	5.3%

「相談するほどのことではないと思った」「相談してもむだだと思った」が 31.6%であり、最も多くなっています。次に多い回答が「恥ずかしくてだれにも言えなかった」の 21.1%となっています。

(5) 行政に求めることについて

政治・行政に対する女性の意見の反映

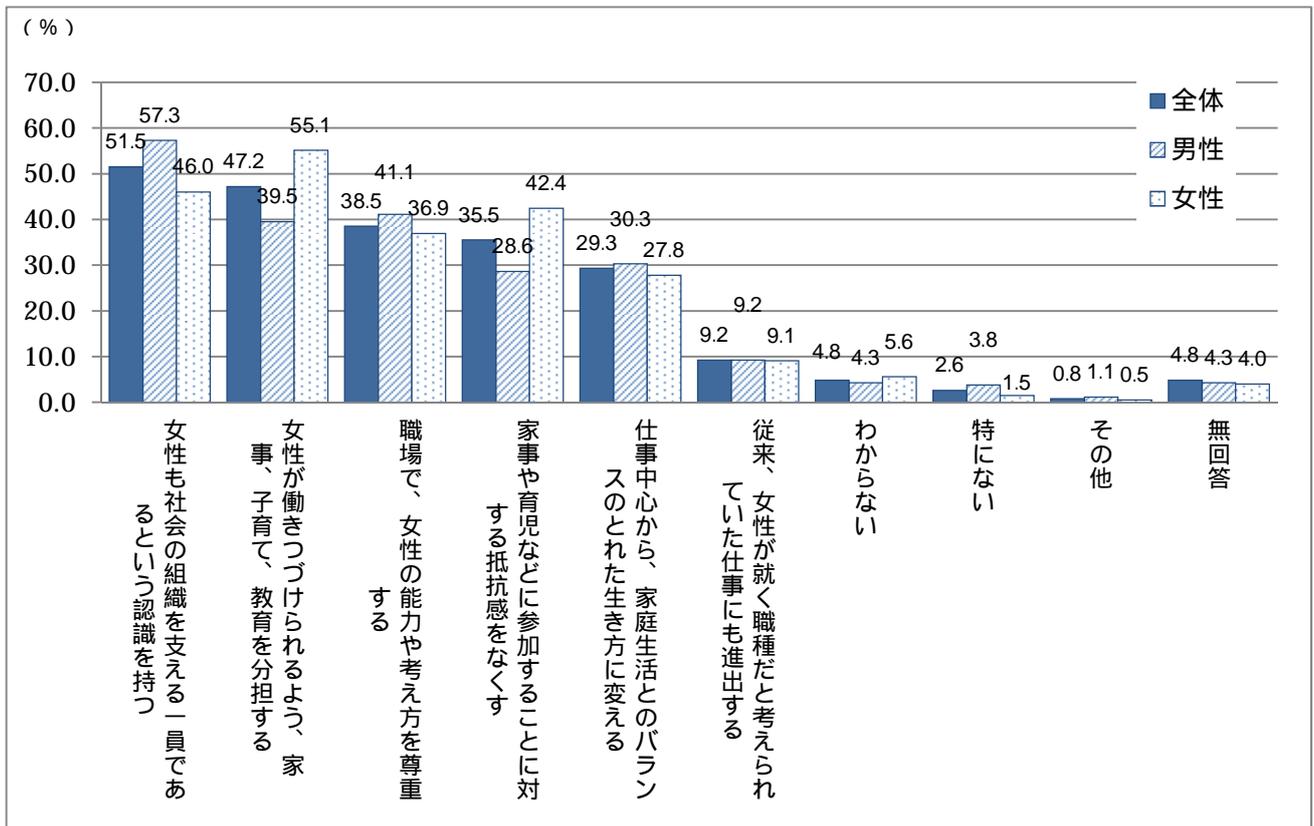
問12 あなたは、現在、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。(は1つ)



「反映されている(十分反映されている+ある程度反映されている)」と回答した人の割合が39.3%、「反映されていない(あまり反映されていない+ほとんど反映されていない)」と回答した人の割合が38.5%となっています。

男女共同参画社会を実現するために男性がすべきこと

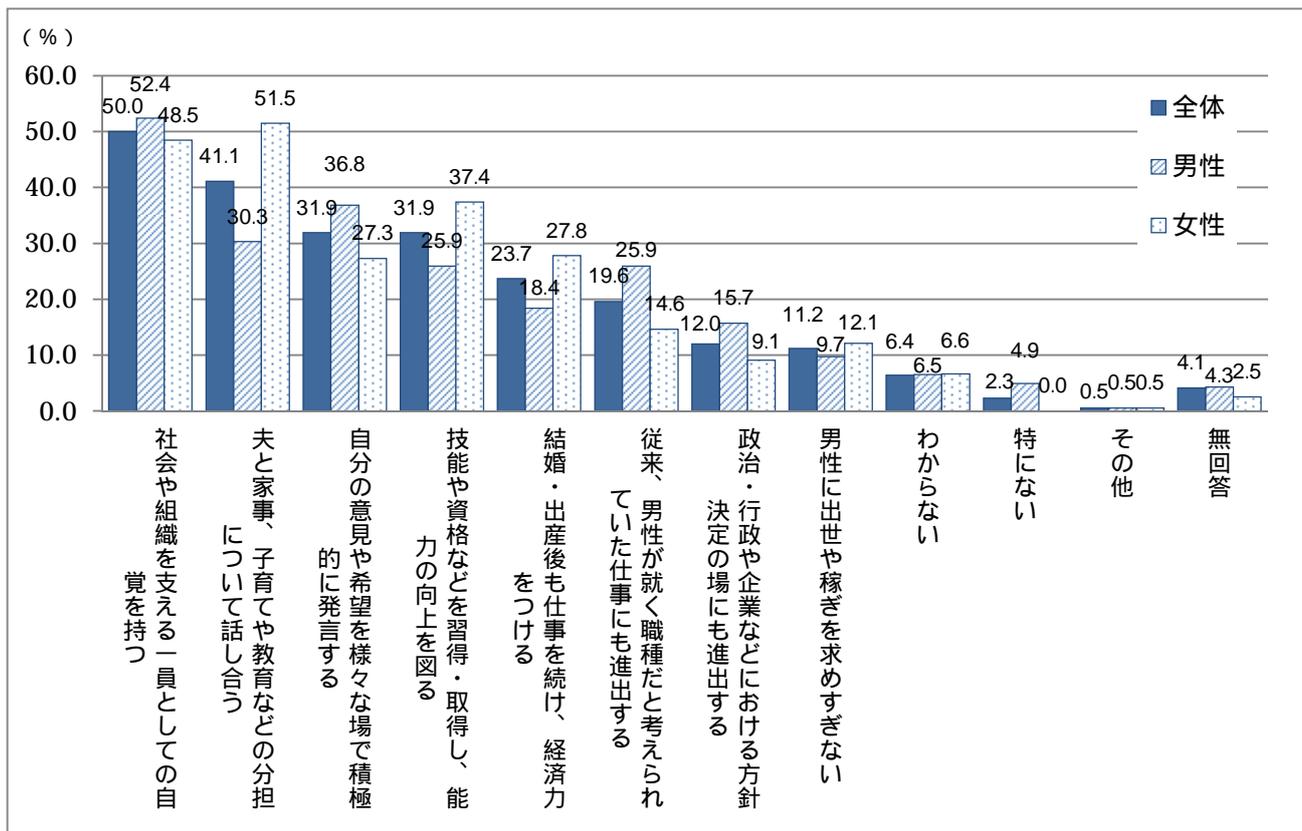
問13 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、男性はどのようにすることが必要だと思いますか。(は3つまで)



「女性も社会の組織を支える一員であるという認識を持つ」が51.5%と最も多く、次いで「女性が働きつづけられるよう、家事、子育て、教育を分担する」が47.2%、「職場で、女性の能力や考え方を尊重する」が38.5%となっています。

男女共同参画社会を実現するために女性がすべきこと

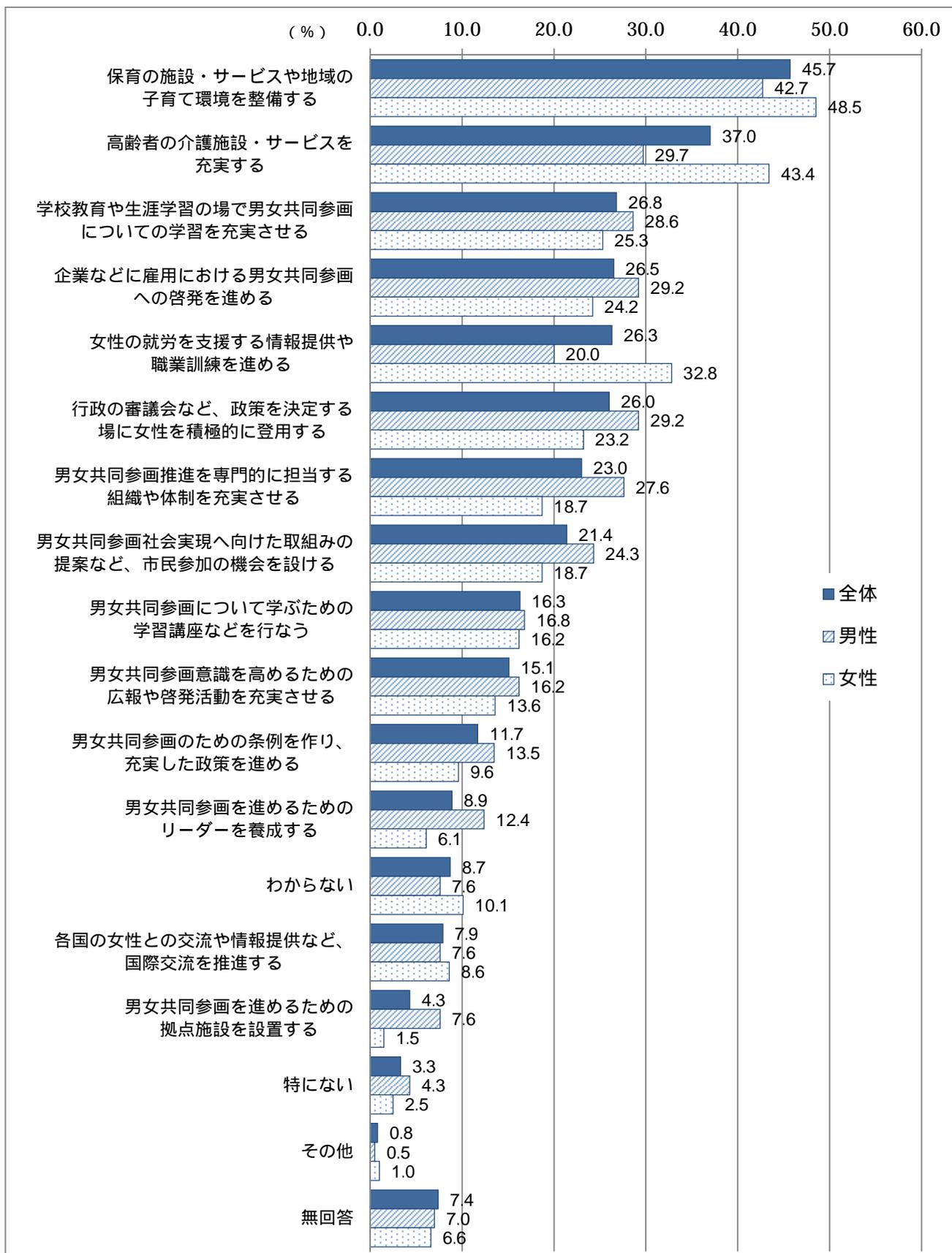
問14 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、女性はどうのようにすることが必要だと思いますか。(は3つまで)



「社会や組織を支える一員としての自覚を持つ」が50.0%と最も多く、次いで「夫と家事、子育てや教育などの分担について話し合う」が41.1%、「自分の意見や希望を様々な場で積極的に発言する」が31.9%となっています。

北広島市に求めること

問15 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
(は5つまで)



「保育の施設・サービスや地域の子育て環境を整備する」が45.7%（前回調査56.7%）と前回調査と同様に最も多くなっています。

次いで、「高齢者の介護施設・サービスを充実する」37.0%（前回調査42.4%）、「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画についての学習を充実させる」（前回調査41.5%）となっています。

男女別に見ると、「高齢者の介護施設・サービスを充実する」が女性の回答率（43.4%）に対し、男性の回答率（29.7%）が低くなっています。

前回調査の結果と比較して、「企業などに雇用における男女共同参画への啓発を進める」と「男女共同参画推進を専門的に担当する組織や体制を充実させる」が順位を上げています。

→回答が多かった順番に表示

（ ）内は前回調査

順位	回答項目（ ）内は前回の順位	全体	男性	女性
1	保育の施設・サービスや地域の子育て環境を整備する(1)	45.7% (56.7%)	42.7% (55.2%)	48.5% (58.5%)
2	高齢者の介護施設・サービスを充実する(2)	37.0% (42.4%)	29.7% (35.4%)	43.4% (45.5%)
3	学校教育や生涯学習の場で男女共同参画についての学習を充実させる(3)	26.8% (41.5%)	28.6% (41.4%)	25.3% (40.7%)
4	企業などに雇用における男女共同参画への啓発を進める(7)	26.5% (28.6%)	29.2% (29.8%)	24.2% (27.7%)
5	女性の就労を支援する情報提供や職業訓練を進める(4)	26.3% (38.9%)	20.0% (32.6%)	32.8% (44.3%)
6	行政の審議会など、政策を決定する場に女性を積極的に登用する(5)	26.0% (33.4%)	29.2% (38.7%)	23.2% (30.4%)
7	男女共同参画推進を専門的に担当する組織や体制を充実させる(9)	23.0% (25.9%)	27.6% (33.2%)	18.7% (21.3%)
8	男女共同参画社会実現へ向けた取組みの提案など、市民参加の機会を設ける(6)	21.4% (29.5%)	24.3% (28.7%)	18.7% (28.9%)
9	男女共同参画について学ぶための学習講座などを行なう(10)	16.3% (24.4%)	16.8% (22.1%)	16.2% (24.5%)
10	男女共同参画意識を高めるための広報や啓発活動を充実させる(8)	15.1% (27.3%)	16.2% (27.6%)	13.6% (28.1%)
11	男女共同参画のための条例を作り、充実した政策を進める(11)	11.7% (15.8%)	13.5% (18.2%)	9.6% (15.0%)
12	男女共同参画を進めるためのリーダーを養成する(12)	8.9% (7.0%)	12.4% (7.2%)	6.1% (7.2%)
13	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する(初)	7.9% (-)	7.6% (-)	8.6% (-)
14	男女共同参画を進めるための拠点施設を設置する(13)	4.3% (6.2%)	7.6% (10.5%)	1.5% (2.8%)

北広島市男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書(概要版)

平成 25 年度

発行年月 平成 26 年 3 月

発 行 北広島市企画財政部行政推進課男女共同参画担当

〒061-1192 北広島市中央 4 丁目 2 番地 1

TEL(011)372-3311(内線 841)